

507  
42



始





2426

507-42



傳

書

鳩

陸軍用鳩調查委員  
少佐 岩田巖著

科學知識普及會





陸軍少将畑美太郎

里美翔一

軍用機調査委員長 陸軍少将畑美太郎氏題字



傳得平味信

信補書

公傳信補氏題字



## 序

傳書鳩が軍用として缺くべからざるものなることは申す迄もないが、其の以外にも本書中に詳論してある通り、之が應用の範圍は極めて廣い。

然るに現在陸海軍以外に傳書鳩を飼養してゐるのは、主として娛樂用のものが多く、實用方面に於ては、まだ充分普及されてゐないやうである。これは確に從來一般に傳書鳩に關する知識が缺けてゐた爲であらう。

此の際、軍用鳩専門家として、多年の經驗を有せらるゝ著者に依つて本書の著述せられたのは、右の缺陷を補ふ上に於いて、非常に効果のあると、信ずる。又本書は一面には應用鳥學の上から見て、幾多の趣味ある問題を取扱つてあるからして、此點は鳥類に關する専門家に取つて種々な有益なる資料を供給するものである。

本會は右に述べた如く、本書が傳書鳩の普及並應用鳥學の研究上、極めて有益なるものとして其の出版を歓迎し、併せて廣く本書の普及せられむことを



希望して止まなす。

二

大正十一年九月

## 日本鳥學會

### 序

昔から日本人は、西歐の人に較べて家畜を始め色々の生き物を馴化し改良する事は、不得手であつたかと云ふと、決してさうではない。色々の植物、動物にしる相當人爲化して居る。そして可なりの成績を擧げてゐるのである。然るに近代になつて、西歐諸國から家畜にしる、家禽にしる、優良種と云はれるものを輸入すると、間もなく其れを保存し得ないばかりか、多くは退化する傾があり、全然日本人に其天稟がないかの觀があるが、實際のところは決してさうではない。

只、昔から吾々が傳統的に傳へられて來た生物飼育の方法は、今の言葉で云へば非科學的の事が多い。たゞ時間と根氣とを基として機會を待つばかりで、勞多くして功少なく、且つ一たび其道の天才を失へば、其方法形式を再現する事が出來ないのである。

今日の如く科學が唱へらるゝにも拘らず、鳥を飼ひ花を培ふ人の多くは、傳

三



統的であつて、科學の前には無頓着である。永い經驗(それも井底の蛙式に狭い領域丈けの)と言ひ傳へ丈けとて押し通して居るか、甚だしきは科學的見地からの飼ひ方を嘲笑の的とする人さへもある。經驗も必要である、傳統も亦尊いものであるが、少くも吾等人類の永い間の體驗と推理との聚積である科學を、排する事は無謀である。

日本で生物の改良進歩が進まぬのも、輸入されたる優良種が退化するのも、氣候風土の關係もあらうが、飼育者の多くが科學的考慮を拂はぬに依る事が少くないのである。それに技術の未だそぐはぬ點も亦多々あらう。

繰返して云ふ、非科學的時代の昔にさへ吾々の祖先は種々の生物を改良して居る。其點から考へて日本人に全然生物飼育の素質がないと斷定する事は早計である。昔からある此素質技術に、現代の科學が教ふる事實を加味して行つたなら、西歐諸國に遜色なき事を得る事も難くないと思ふ。且つ吾々日本人は兎角根氣が乏しい。忍耐に忍耐を加へ、經驗に經驗を重ねて、然る後に成功の域に達する事を忘れてはならない。今の日本人の生物飼育に不得

手なのは、根氣と科學的考察を拂ふ事とが少いからである。

日本は西歐大陸の國とは風土氣候が違ふ事甚しい。是等の國の優良種必しも吾國に適當すると云ふ事は云へない、つまり西歐諸國が今日迄の經驗を基とし、やがては日本式優良種を作り出すべきである。只此れを漫然と繼承して吾が事足れりとなすは、科學的見地からは容である。

昔の鳥の本を見ると、何れも自分の經驗しか書いてない、つまり参考書を見る機會が少なく、他人の觀察を受入れる機會が少なかつたからである。今日はそれと反對で、他人の觀察は自分には重要な批判である。自分の經驗のみを尊しとする昔流の考へは休めて、廣く他人の考察をも受入るゝ事が必要である。此著を讀まるゝ諸君も、是非此態度で讀破されたいのである。

此れを一言にして云へば、鳩を飼育訓練さるゝ諸君が、傳統的方法にのみ耽溺して科學的考察を忘れざらん事にある。

本書は我國最初の鳩の本で、又少くも現代味を離れざる飼鳥の本である。會員岩田氏が、半生の苦心を盡したる此書の上梓さるゝは、獨り日本の傳書



鳩研究者の爲めばかりでなく、廣く一般の飼禽家に喜悅を以て迎へらるべきものであらう。

聊か燕言を記して氏の著を世に薦める次第である。

六

大正十一年九月

## 鳥の會

## 自序

予は單に一介の武辨に過ぎぬから、科學的知識や文學的才能の所有者では勿論ない。併し鳩に關しては、生來の嗜好と軍用鳩の調査研究を命ぜられて之に従事して居る關係上、クレルカン中尉以下佛國武官の使鳩法を見聞し、且つ數年來實地に就て經驗して得た所が尠くないから、茲に其實驗の結果を御紹介しやうと思ふ。

鳩は馴れるに従つて命令の儘に能く使用する。實に可愛い鳥である。その速度は平均一時間十五里。一日約二百里を飛ぶ。

電信電話は輻湊して急の間に合はず、汽車や電車も尙且つ遅しとする今日では、鳩を使ふが何より調法だ。一般民間に於ても、商業は勿論、定期相場や將又漁業の通信等に使はれたなら、有らゆる機關中の最優なるものであらうと信じて、之れが使用を奨勵せんとの婆心から此一編をものし、大方諸賢の御參考に供する次第である。

七



本書は業務の傍ら勿卒の間に書き列ねたもので、書き漏した點や重複した箇所もあるべく、加之研究未熟の爲め、觀察の誤解謬見もなきを保し難いから、御發見の際は御叱正の勞を賜らば著者の忻幸とするところである。

八

大正十一年九月

著者

## 目次

第一章 傳書鳩の沿革	一
第二章 傳書鳩の用途	一三
第一節 平時に於ける傳書鳩の用途	一三
第二節 戦時に於ける傳書鳩の用途	一九
第三章 傳書鳩の性能	三三
第一節 傳書鳩の歸巢性	三三
第二節 傳書鳩の表情	三六
第三節 傳書鳩の飛翔能力並通信携行法	三〇
第四章 鳩舎及鳥籠	三三



第一節 鳩舎の種類及設備……………三

第二節 鳩舎の掃除……………三四

第三節 鳥籠……………三五

第五章 傳書鳩の飼育……………三七

第一節 飼料の成分及性質……………三八

第二節 飼料の栄養價値……………四一

第三節 飼料の日量……………四四

第四節 飼料の種類……………四五

第五節 飼料の給與……………五八

第六節 飲水の給與……………五九

第七節 飼料の撰擇……………六一

第六章 傳書鳩の訓練……………六三

第一節 豫備訓練……………六三

第二節 本訓練……………六八

第一 片道遠距離通信の訓練……………七一

第二 往復近距離通信の訓練……………七五

第三 夜間通信の訓練……………八一

第四 移動通信の訓練……………八九

第七章 傳書鳩の蕃殖……………九五

第一節 蕃殖の意義……………九五

第二節 雌雄の別……………九八

第三節 雌雄の撰擇……………九九

第四節 雌雄の交配……………一〇二

第五節 産卵……………一〇五

第六節 孵化……………一〇七



第八章 傳書鳩の疾病及其の治療法

第七節 親の年齢と仔……………一四

第八節 傳書鳩品種改良方案……………一八

第一節 傳染病……………一四

第二節 呼吸器病……………一七

第三節 消化器病……………一九

第四節 運動器病……………二三

第五節 眼病……………三五

第六節 産卵異常……………三六

圖版

第一 アントワープ型傳書鳩……………口繪

第二 リエーゴ型傳書鳩……………

第三 傳書鳩の骨骼……………

第四 著者の十二羽入固定鳩舎……………

第五 自轉車曳八羽入移動鳩舎……………

第六 傳書鳩乗馬携帶法……………

第七 通信筒を附けた傳書鳩……………

第八 傳書鳩の脚に附けた通信筒……………

第九 通信囊を附けた傳書鳩(腹面)……………

第一〇 同前(背面)……………

第一一 水浴……………

第一二 著者とその鳩舎……………

第一三 東京朝日新聞社飼育鳩の海陸の通信……………(一六頁對向)挿繪

第一四 東京朝日新聞社の傳書鳩用具一切……………

第一五 大正十年秋大阪好鳩會品評會と師團長と知事……………(一八頁對向)

第一六 大正十年秋大阪好鳩會品評會出陳鳩……………

第一七 京都及高知兩市の傳書鳩番附……………

第一八 大阪好鳩會番附……………

第一九 飛行機よりの放鳩……………(二〇頁對向)

第二〇 中野軍用鳩調査所固定鳩舎……………(三二頁對向)

第二一 露國浦潮固定鳩舎……………

第二二 固定鳩舎内部(中野軍用鳩調査所)……………



第二三 固定鳩舎内部(神戸赤松氏).....

第二四 手曳二十羽入移動鳩舎.....

第二五 一馬曳三十羽入移動鳩舎.....

第二六 四馬曳六十羽入移動鳩舎(於平和博會場).....

第二七 四馬曳六十羽入移動鳩舎.....

第二八 移動鳩舎の内部(入舎の景況).....

第二九 騎兵に携帶された鳩籠.....(三六頁對向)

第三〇 人と鳩との親和.....(六二頁對向)

第三一 傳書鳩の翼.....(六八頁對向)

第三二 鳩體の名稱.....

第三三 向つて右雌向つて左雄(傳書鳩)向つて右傳書鳩左堂鳩(九八頁對向)

第三四 水浴(於平和博會場).....(一一二頁對向)

防圖一 八羽入自轉車曳鳩舎設計圖.....(巻末)

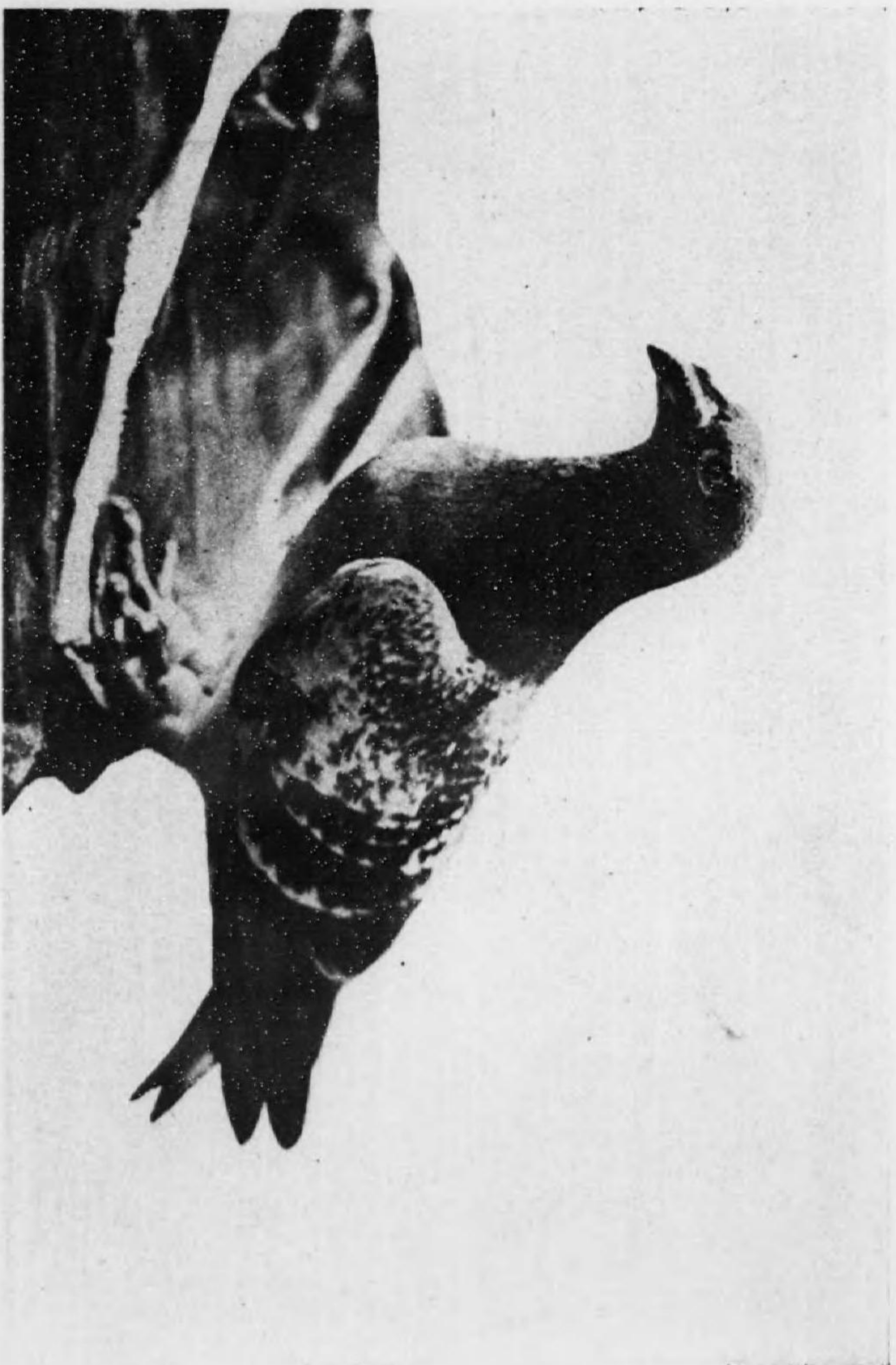
附圖二 十二羽入固定鳩舎設計圖.....



(原圖)

鳩 傳 書 鳩 型 プ ー ヲ ト シ ヲ

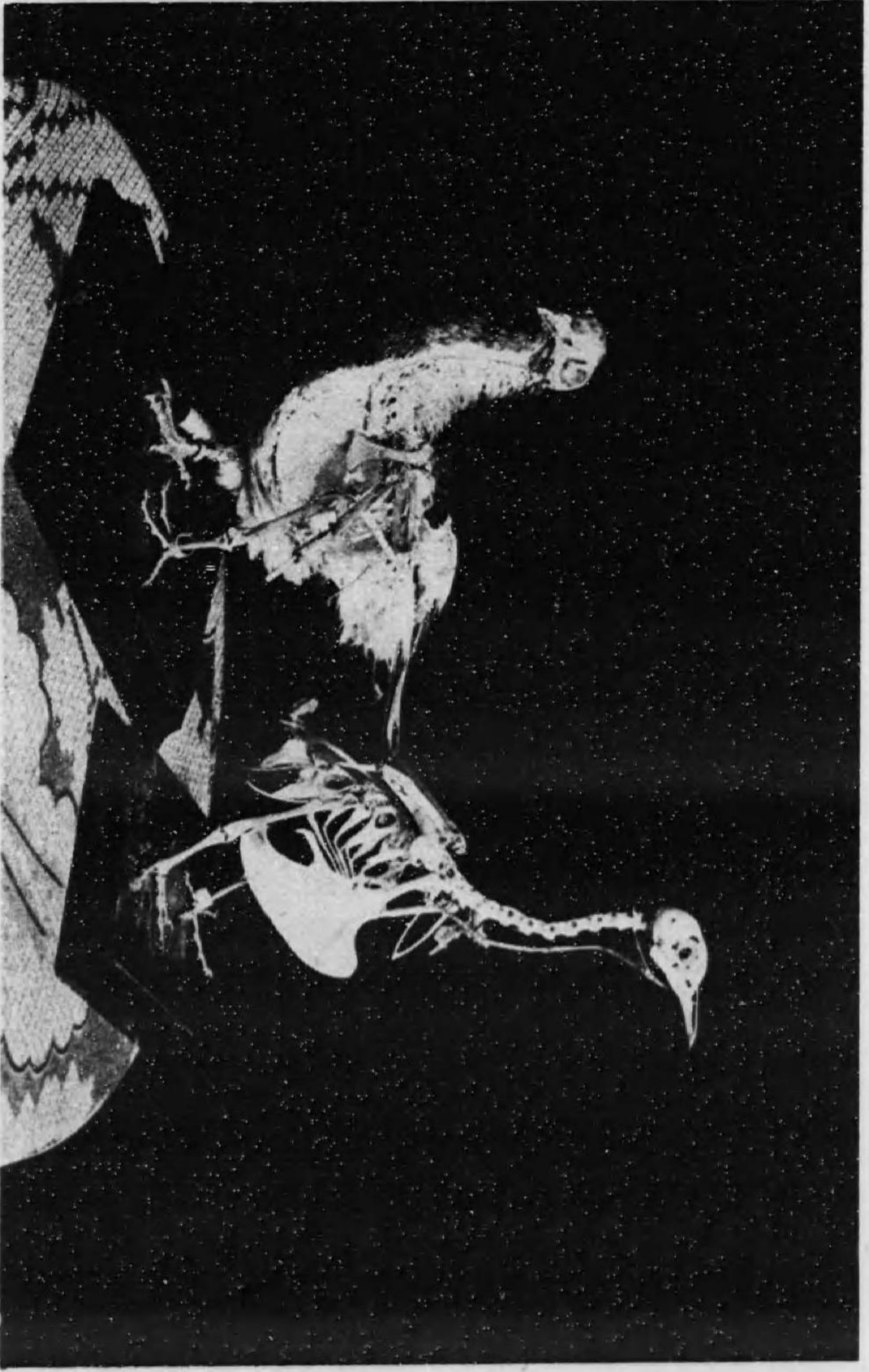




(圖版第11)

鳩書傳・型ユジ一エリ

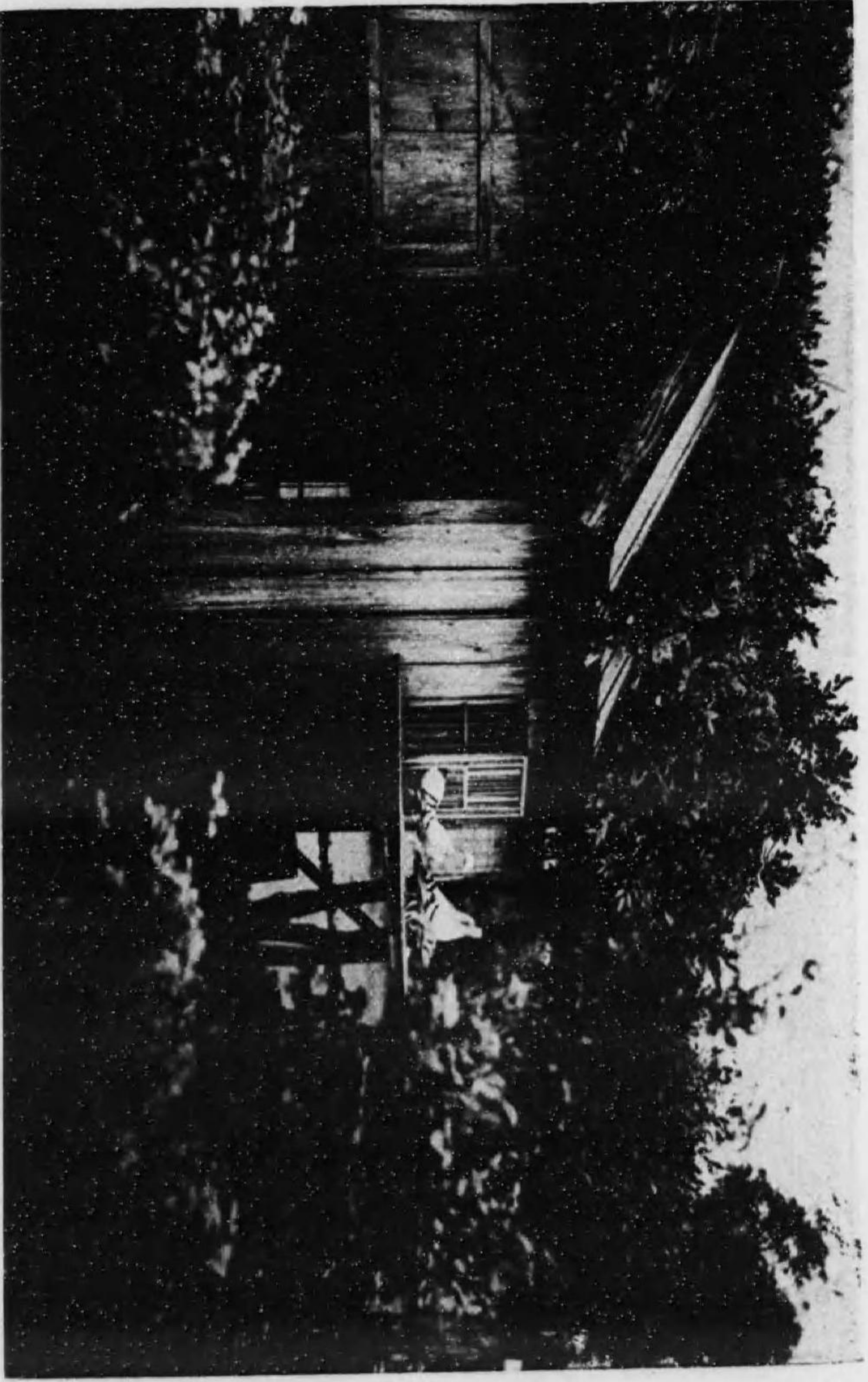




傳書鳩の骨格

(圖版第三)

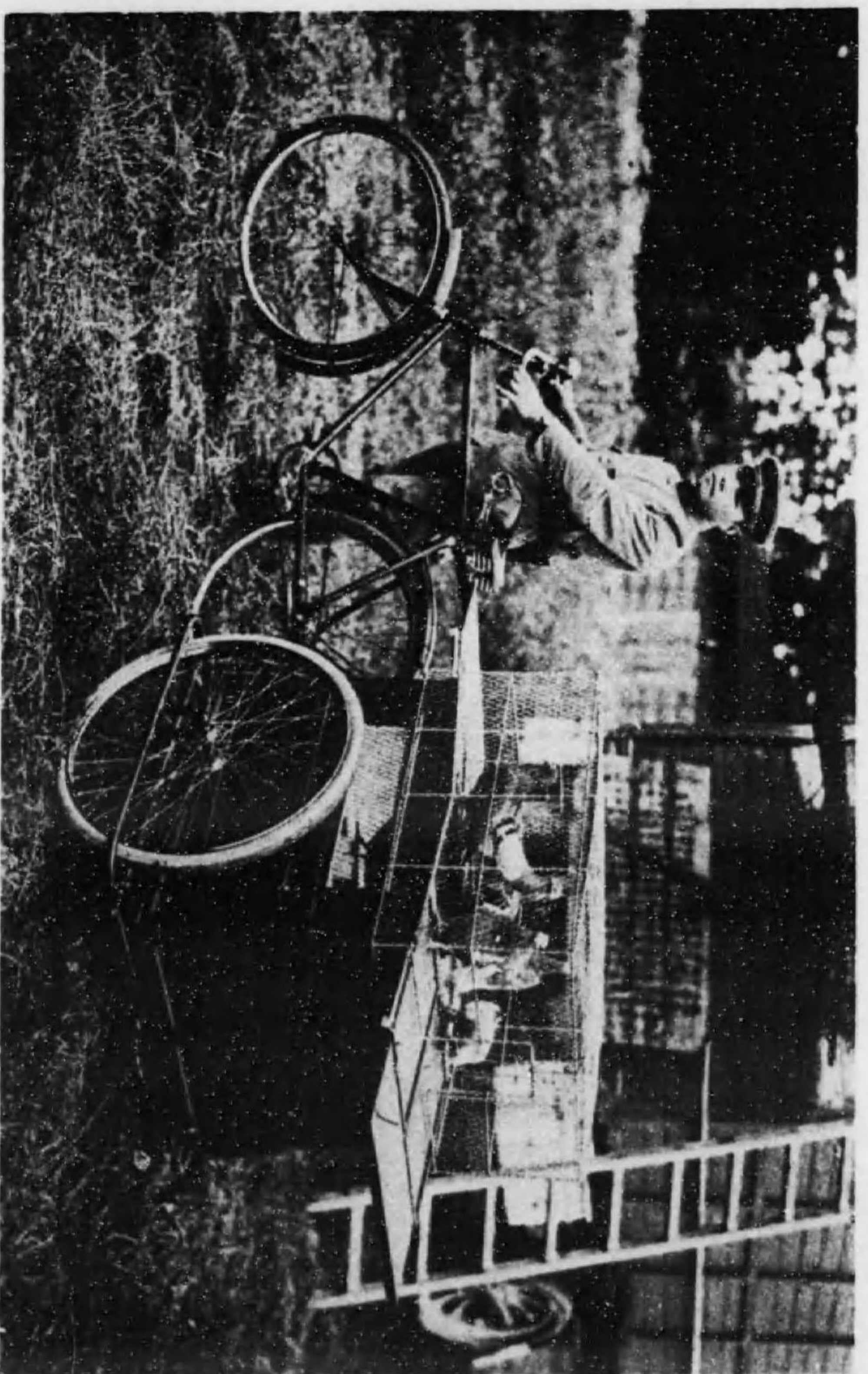




(圖版第四)

著者二十の初固定鳩舎





(圖版第五)

舍鳩動移入羽八曳車轉自





(圖版第六)

法帶携馬乘鳩書傳





(圖版第七)

通 信 筒 を 附 け た 傳 書 鳩





(圖版第八)

筒信通たけ附に脚の鳩書傳





(圖版第九)

(面腹) 鳩書傳たけ附を囊信通

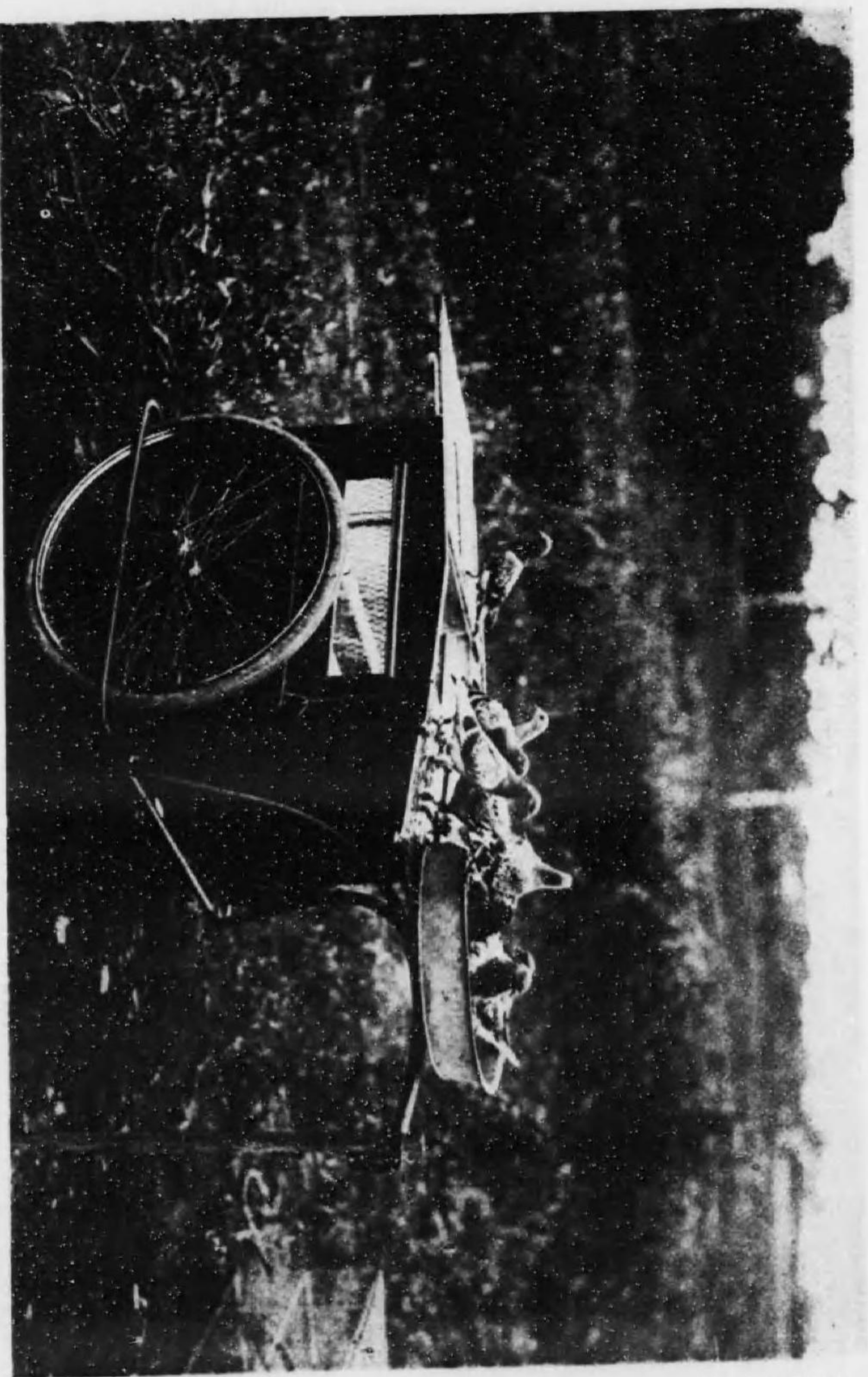




圖版第103

同 前 (春面)

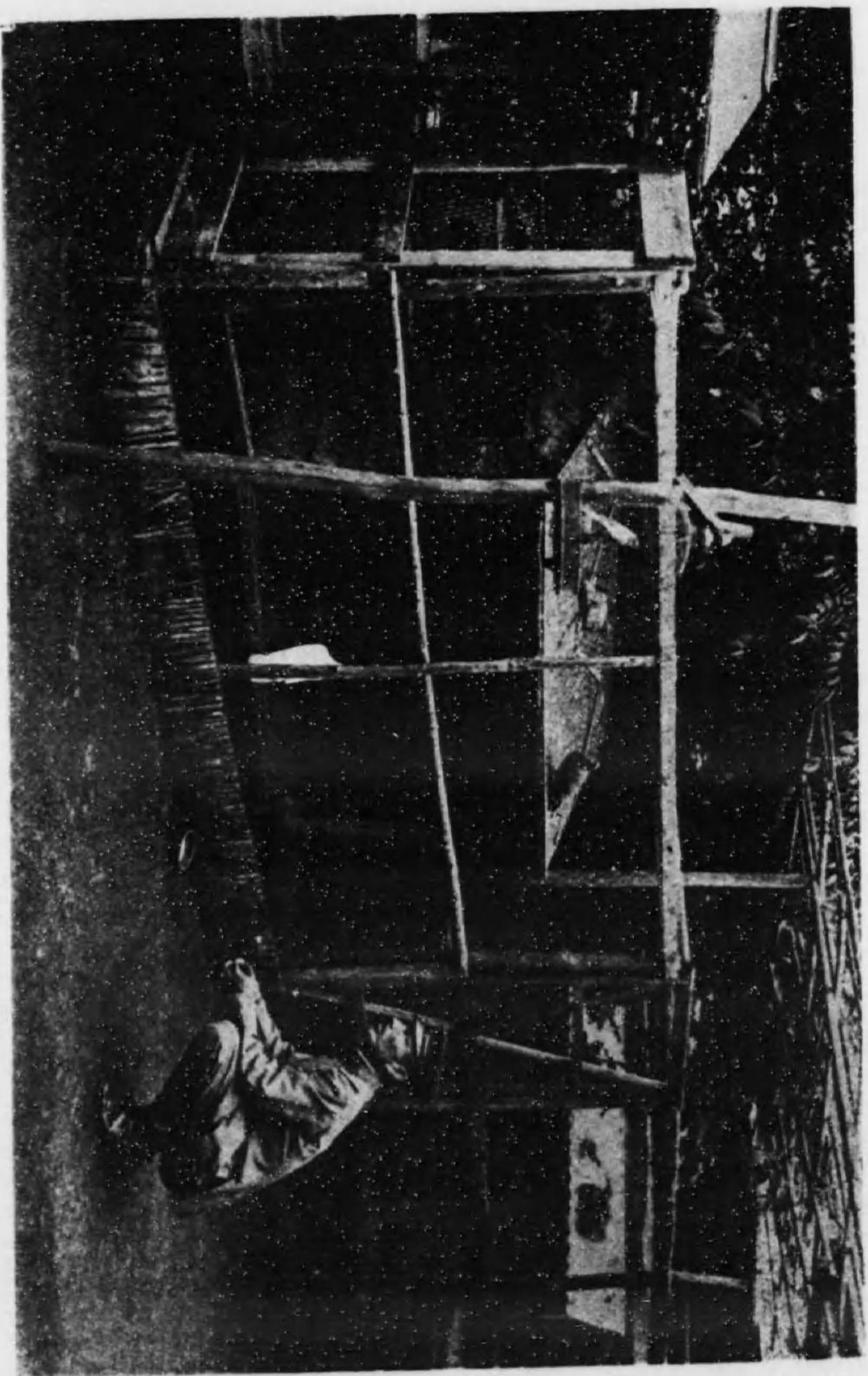




(圖版 卷 11)

水 浴





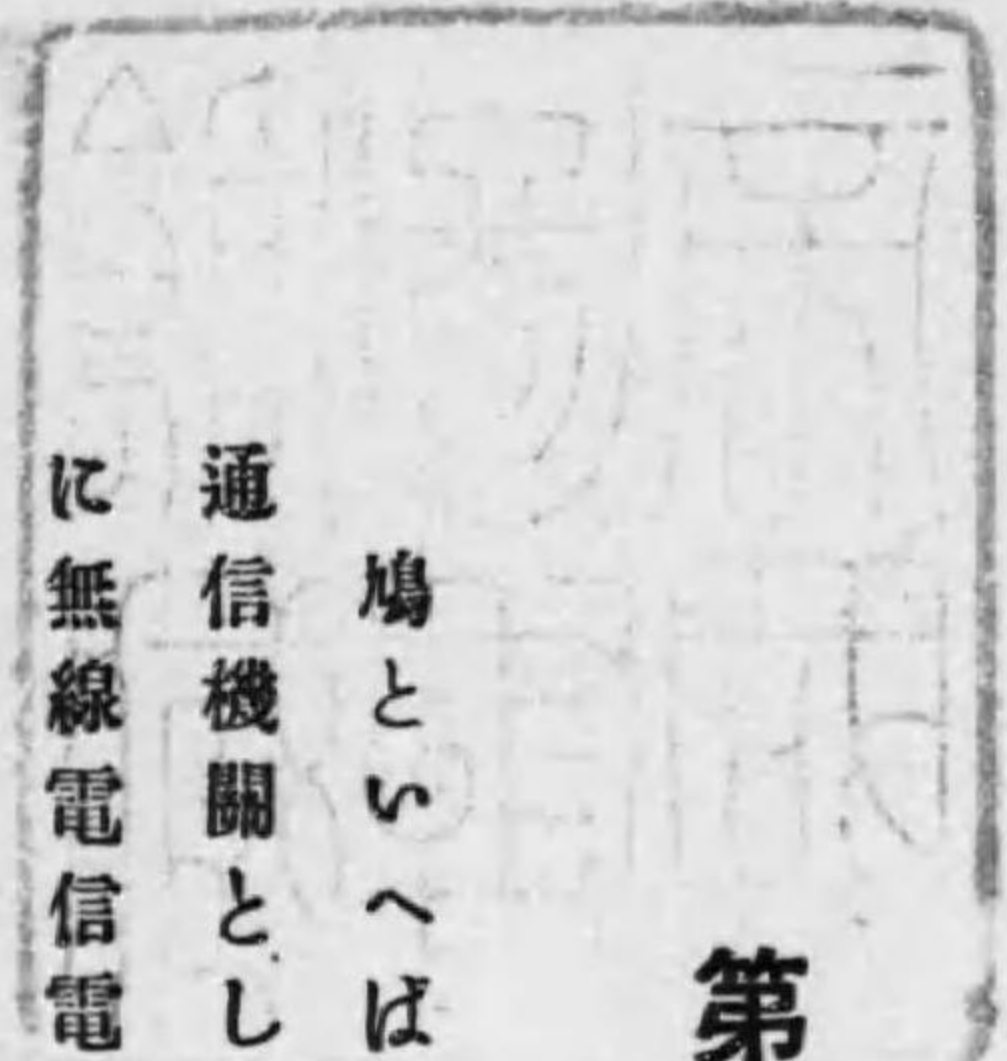
(圖版第一三)

著 者 と そ の 鳩 舎



# 傳書鳩

## 第一章 傳書鳩の沿革



鳩といへば豆を欲しさに群る山門のそれを想ひ起す位が關の山で、原始的通信機關として一向に顧みられなかつたものが、近時再び科學的通信機關殊に無線電信電話の著しい發達を超越して、軍用に缺く可からざる通信機關の一として軍隊に民間に盛んに飼育されてゐるが、これをしも流轉といふのであらうか。

鳩が有史以前から人類と密接な關係のあつたことは、太古ノアの洪水に鳩が橄欖の葉を嚙へて來たといふ傳説、鳩の如く柔和なれといふ基督の遺訓、漢の高祖が項羽に追ひつめられたとき鳩を放つて井中に生を得、川中島の戦に



謙信が鳩の吉兆に、進めの下知を下したといふ軍記等によつても證據立てられるが、歴史的事實も可なり範圍の廣いものがある。

アフリカ土人が鳩を使うてパレスタインと他の町との間に信書を交換し、古代エジプトの漁夫が鳩を用ゐて海陸の通信を行つたといふことは、遠く紀元前に屬すること、吾等の祖先が宮鳩を傳書鳩として使うたといふことも太古の出來事として記録されてゐる。併し、その最も發達したのは、人類發祥の地と目されてゐる小亞細亞地方であつて、數十世紀以前に已に盛んに使用せられ、當時一羽の鳩を金貨千個と交換したといふ話によつても、その全斑を窺ふことが出來やう。

軍事上に鳩を使うたのも近頃の發明ではない。紀元前四十二年モデーヌの攻圍戰にその守將が鳩を使つて通信したと羅馬の史家は述べてゐる。羅馬全盛の時代には、諸國蠶食に當つて各地に鳩舎を設け、遞送法によつて戰況は速かに報道せられたのである。

紀元一一四六年にはトルコ帝ノルエヂヤンは領内の連絡通信に鳩を用ひ、

更に領地と首府バグダットとの間に鳩通信網を開設した。其後和蘭人はバグダットから傳書鳩を輸入して盛んにこれを使用し、一五七四年ハレム及びレイドの攻圍戰にその守將が鳩を利用し、守城の任務を完うして赫々たる勳功を奏したことがある。是等が現今歐洲に於ける傳書鳩の發端といふて差支へなからう。

和蘭人に次いで最も古く鳩を飼養したものは白耳義人であつて、殊にリエージュとアントワープの都市では盛んに各特有の鳩を育成したもので、前者は輕快で近距離の飛翔に優り、後者は重厚で遠距離の飛翔に秀でゝゐた。

これよりして露西亞、伊太利、英吉利、西班牙といふ風に歐洲を中心として益益傳書鳩の使用範圍が擴張せられたのである。

一八一五年のことである。英吉利の銀行家で投機業者として有名であつた彼のロスチャイルドは、ワテルローに於ける奈翁の敗戰を附近の山から見物してゐて、これを彼れの傳書鳩でロンドンの銀行に報道し、株の賣買を行つて一舉に巨萬の富を贏ち得た。又、是は佛蘭西革命の時である。彼のルイ



十六世は、タンブルの城中に幽閉された皇后マリア、アントネットの安否を知るに鳩を使用した。昔を偲ぶ佛蘭西の古城址には、今もなほ鳩舎の跡が瞭り瞭りと窺はれるそうである。

元來佛蘭西の鳩は、一八七〇年以前に白耳義から輸入されたもので、リエージ種とアントワープ種との混血改良種である。これが鳩史上に一大革命を與へたのが、彼の七十年戦役に於ける出來事である。佛軍利あらずして巴里に籠城するや、敵軍は蟻の這出る隙もなく是を包圍した。巴里の陥落は刻々に迫つて、籠城の將卒將に死を決した時、天空遙かに翩々と己が古巢を指して飛び行く可憐の鳩、その可愛い足には重大なる信書が纏はれてあつたのである。自由氣球ワシントン號上に於ける彼れガンベッタ唯一の通信機關も亦可憐の鳩のいくつかであつた。ソールに運ばれた二十五羽は、一信又一信すべて重大なる務を果して些の憾みがなかつたのである。

此の事あつて以來といふものは、佛蘭西人は鳩は國防の要素として缺く可からざるものであつて、その飼育は決して遊戯ではない、娛樂ではない、一の國

家的奉仕、愛國的行爲であるとなし、盛んにこれを奨勵した。最近の大戦前には全國到る處に鳩組合の創設を見るの盛況を呈するに至つたのも、蓋し偶然ではないのである。翻つて獨逸を見るに、七十年戦役に於ける佛軍の鳩の成功に刺戟され、效用の偉大なるに氣が付いて、急に鳩の飼育に着手したのである。一八八九年エッセンに於ける愛鳩會の總會にはカイゼル親しく臨場して、汝雄雄しく愛らしき鳩よ、我が祖國の爲めにと愛撫の言葉を與へてこれを奨勵された。以來鳩の飼育は日々に盛んに、戦前に動員し得べき鳩の數は無慮二十萬と稱せられるに至つたのである。佛獨兩國に於て大戦前かくも盛大に鳩が飼育されたのは、犬猿たゞならぬ國際的軍事上の意味も無論含まれてゐるやうが、元來鳩そのものゝ性質が可憐なものと、競務の趣味と通信の利益とが鳩飼等を刺戟したことがその最大原因ではあるまいか。

日本に於ける鳩の飼育も決して最近のものではない。陸軍では明治三十二年に支那から三百羽を購入し、同三十四年に白耳義から三百羽、翌三十五年に獨逸から五十羽を購入して訓練に従事してゐる。そうして日露戦争當時



バルチック艦隊の東洋回航の噂が立つや、萬一臺灣の孤立に陥つた場合を慮つて、若干の鳩を此の地に送つて難に備へた。

以上通信用としての鳩の沿革を述べたのであるが、兎に角日本にせよ外國にせよ、鳩の歸巢性は疾くの昔から知られて、これが利用の範圍もだん／＼に擴大されて來たには來たが、その用途は實際的から愛翫的に趣く傾きが明らかになり認められた。これはいふまでもなく、科學の進歩に對する自然の淘汰であつて、日ならずして全く人に顧みられぬやうな悲運に會しはせぬかといふ疑ひさへ起さしめた。果せる哉。明治四十二年頃から科學的通信機關としての無線電信は異常の進歩を遂げて、世人齊しくこの文明の利器を謳歌するに至り、原始的通信機關としての傳書鳩は、前世紀の遺物として僅かに愛鳩家の手に奄々たる餘命を保つやうになつたのである。

人は曰ふ、事物は繰返すと。秋霜落日の慨があつた鳩通信にも、俄かに百花爛漫の春が來た。春、その實それは世界的大戰亂であつた。抑も建設と破壊とが交互に繰返されることは歴史が明かに肯定するところ、建設的科學が

發達すればこれに反する破壊的科學が同時に發達し、時に却つて前者を超越することさへある。

今次の大戰に於て有線無線の電信電話、回光通信機等を以て綿密なる計畫の下に通信網を編成してあつたが、重要な地區に於て最も通信機關の必要な時機に於てそれ等は常に破壊されてその用をなさぬ。此の秋、砲煙彈雨の中に通信の任務を完全に果し、以て偉功を奏したのは、この可憐なる一小禽、鳩のみであつた。勿論、選拔された傳令使が軍人精神を發揮してかゝる場合に功を奏したことは、鳩通信と共に戰亂中の奇蹟として戰史に録すべきではあるが、常に多大の犠牲を拂つたことを忘れてはならぬ。熊本籠城の勇士谷村計介がその任務を果す爲めに拂つた苦心と日數とは、實に如何にこの種の通信が困難であつたかを想はしめるに足るであらう。世界大戰に於ては、無数の砲彈によつて穿たれた地上の彈痕と阻塞射撃による通過地帯の監視とが、徒歩傳令使を甚く苦しましめ、熊本籠城のそれに比して一層任務の遂行を困難ならしめたのである。之に反して鳩は、内に矢のやうな歸巢の念が燃え、外に



航空路選擇の自由を有するので、通信の重務を最も迅速に、最も確實に果すうへに於て徒歩傳令使の比ではない。實に斯の如き微々たる一小禽が、選拔された堂々たる勇士以上の功績を擧ぐるに至つては、誠に驚くべく賞すべきである。彼の有名なるヴェルダン攻圍戰に於けるヴォー堡壘の守將レーナール少佐が

堡壘は今尙我が掌裡にあり。然れども毒瓦斯と火焰との攻撃を受く。此苦境を脱するは目下の急務なり。スーヴィール堡壘を呼び出せども更に答へず、直ちに彼をして日光通信を送らしめよ。是れ我が最後の鳩なりとの悲壯の報告をなすと共に、堡壘は不朽の功績を残して落城した。人若しレーナール少佐に最良の通信法は何かと問はば、彼れは必らずや一に鳩、二に鳩、三に鳩と答へるであらう。蓋し、人はその境遇に入つて始めて物の眞價を認めるからである。

話は以前に遡る。歐洲大戰の幕が切つて落されるや、獨逸は急遽大軍を西部戰場に集中し、以て一舉に佛都巴里を突かうとした。俄然破竹の勢で白耳

義の中立を侵し、有線無線の電信局を奪取して盛に虚偽の電報を打ち、佛白軍をして極度の混亂に陥れやうとした。併しそれは翼を有する忠實なる使者の爲めに見事裏切られた。獨軍が白耳義全土を占領するや、直ちに兵器の全部と傳書鳩との引渡しを強要したのを見ても、獨軍が如何に傳書鳩の爲めに苦しめられたか、窺はれると同時に、鳩の通信價値を十分認めたとを察するに難くはない。

ソナムの會戰に於ては、佛軍が攻勢を取つた爲め、他の通信機關が整然と活動したのでヴェルダンに於けるやうな功を奏しなかつたが、それでも鳩としての固有の價値は維持された。即ち退却に追撃に移動鳩舎の適切なる運用によつて、他の文明利器に伍してよく幾多の成果を齎してゐる。

一九一八年九月十三日サンミュールに於ては、午前一時に同地を發した鳩が四十吉米(十里)の暗路を辿ること五十五分間にしてコンメルシーに着いた。更に十月には佛蘭西第二十八師團參謀部は一箇月間に一移動鳩舎によつて二百十通の情報を手にしてゐる。この移動鳩舎を始めとして夜間飛翔、



往復通信等は、戦亂の裡に工夫された鳩通信の一進歩である。その他、黄塵を蹴つて猛然敵壘目がけて突破するタンクや、巴里人の心膽を寒からしめた長距離砲の如き愕くべき軍事科學の進歩に伴ふ文明の利器が、思ふがまゝにその威力を發揮し得たその半面には、通信用として何時も偉大な助力をなしたものは實に鳩であつたことを忘れてはならない。

前に述べた數々の成績を認め、我國に於ては、先づ陸軍が再び傳書鳩に就いて研究の歩を進めることとなり、大正八年四月佛蘭西より千羽の傳書鳩を購入し、これと同時に彼地の武官三名を招聘し、東京府下中野町に研究所を設けたので、此處に再び島帝國の碧空に駿翼風を切る平和の使を見るに至つた。そして育成された雛鳩を訓練幾許ならずして嚴寒の地西比利亞に派遣し、そのハッロフスクに設置された二鳩舎は、或は搜索騎兵隊の爲め、或は諜報勤務の爲めに試用せられ、折からの嚴冬を物ともせず、交通不便の曠野に唯一無二の通信機關となつた。更に翌一月末のこと、浦鹽ニコリスク間電線の切斷されたとき、鳩の活動によつて、派遣支隊の孤立を救ふことが出来た。當時空は

いやが上にも寒く、ドンヨリとしてゐた。その中を九十吉米二十二里半間を一時間半乃至二時間で突破し、その使命を果たしたのである。

その後も内地の大演習には毎年参加し、時に各部隊の連絡に任じ、時に要圖の運搬に務め、電信電話と並び赫々たる成果を收め、その度毎に鳩通信の爲めに萬丈の氣を吐いた。

かくの如く、我國に於ける研究も概して急速に進歩し、往復通信の實績も舉がり、中野町の研究所と在千葉町歩兵學校との通信には常に鳩を使うてゐる。又その飛翔最大距離に至つても、つい此五月末盛岡中野間の記録を作つてゐる。その成績に就いては當時彼此の批評もあつたが、天候の最も不適當の時に折柄の暴風雨を突破し、經過時間十時二十五分で兎に角連絡の目的を達したといふことは、鳩通信の一進歩といはねばなるまい。其他各陸軍所屬の學校に於ける兵科専門の研究も進み、各隊に於ても私かに飼育研究の向も少くない。

世界的大戰とはいへ、中心から遠ざかつてゐた我國に於ける研究すら以上



述べた通りであるから、況して戦亂の渦中にあつた英佛獨等は實驗的に研究を進め、眞に驚くべきものがある。獨逸をして再び立つ能はざらしめんとて獨逸軍の編成に大斧鉞を強要した彼の媾和條約ですら、各師團に各一個の鳩通信隊を置くことを承認してゐるのを見ても、想半ばに過ぐるものがあらう。

## 第二章 傳書鳩の用途

人類は有史以前から已に傳書鳩を利用してこれに重要な使命を託して居つたことは、前章に述べた通り、幾多の事實によつてこれを想察することが出来やう。そして何ういふ場合に、例へば平時は何ういふ場合に用ゐられるか、戦時は軍用として何う使はれるか、つまり傳書鳩の用途如何は研究を進むるうへに興味の多い問題であらう。

### 第一節 平時に於ける傳書鳩の用途

平時に於ける傳書鳩の用途は數々あらう、今それを一々詳細に述べることには際限のないことであるから、最も多く使用される場合二三に就いて説明を試みやう。

一 一定せる兩地點間若くは數地點間に日々信書の往復。一定してある甲乙兩地點間、例へば中野の研究所と横須賀の射撃學校との間を、若しくは甲



乙、甲丙 數地點間例へば中野研究所と横須賀、中野研究所と〇〇〇とを日々信書の往復をなさしめることは、最も容易のとして中野と千葉の歩兵學校との間、習志野騎兵聯隊と船橋の中隊長自宅間は現に實行しつゝあるのである。

二 鳥嶼と鳥嶼間若くは鳥嶼と大陸間又は遠隔せる各地間の連絡。これは前項の擴大されたものと見ることが出来やう。酒田市の沖合に飛鳥といふ小さい島があるが、此の島は冬になると西風が強くて到底も船の往復がむづかしい時が多いので、今では傳書鳩を使つて陸上と島との連絡を取つてゐる。これなどは確かに好例の一つである。又、鐵道沿線に飼養するときは、暴風雨などの爲めに通信機關の破壊された際に使用される、一步進んで列車が鳩を携帯することになれば、驛と驛との中間、又はトンネル内の出来事を通報するに最も妙、人と時とを節約するではないか。

三 漁業家が出漁の際に海上と陸上との通信。これは漁家が沿岸地帯に鳩を飼養し、出漁の際にこれを携帯し、三十海里、四十海里の沖合から放つて、その日の漁不漁や捕獲した魚の種類や數量を問屋筋に通信する、すると問屋で

はその通信によつて市を立て、船が港に入ると直ぐに魚を販賣者の手に渡すのである。それから又、出漁の度毎に鳩を携帯して、難船の際や難船救助の際にその急を通知することも出来る。現に紀州熊野浦の捕鯨船は、沖で鯨を捕へると直ぐに鳩を濱の方へ放つ、濱ではその通信によつて獲物を料理する仕度に取りかゝるといふ。其他鹿兒島縣の水産試験場等も此目的で、目下澤山傳書鳩を飼養してゐる。

四 出先から家族に通信。これもむづかしくない。此處にいふ出先は主に旅行先である。出先の一例として、青森縣北津輕の醫師中江貞市氏は澤山の傳書鳩を飼つてゐて、廻診の際にこれを携へ、病家で診察が了へるとその場で處方箋を認め、これをその鳩に持たせて歸らしてゐる。都會地で電話の便のあるところでは、かくまでせずともよからうが、少し田舎では最も妙を得た方法であらう。又、こんな一挿話もある。一昨年冬の事である。東京府下練馬の素封家陶山某氏の一粒種で當年十六歳になる愛娘が、流行性感冒でとも助かるまいといふわけであつた。お嬢さんも命數と諦めて、もうこれが



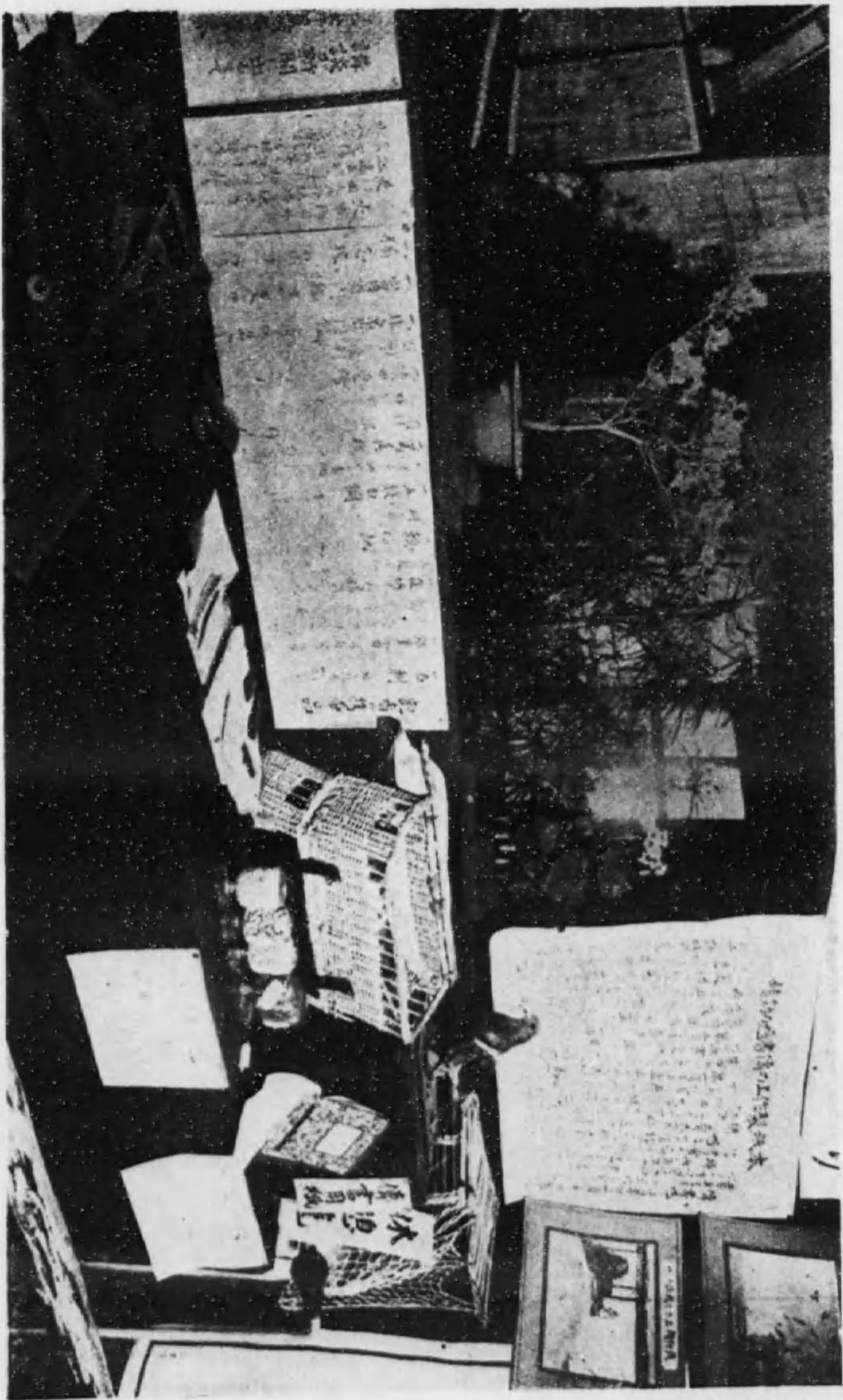
此の世の終だから、せめて自分が日頃から愛育してゐる鳩にお使させて下さいと附添の者にも願した。そこで醫者を迎へに行つた男に鳩を持たしてやつた、何しろ醫者の家といふのは板橋で、練馬からは一里半も離れてゐるから、醫者が行くにも一時間以上はかゝるといふ不便な所である。そこで醫者は取り敢へず薬を鳩に持たして歸らした、鳩は日頃の訓練に一里半の途を僅か五分経たないうちに歸つて來たので、持參した薬を早速お嬢さんに飲ませたところがい、鹽梅に藥石の效があつて一命を取留め、その後間もなく全快された。親子はいふまでもなく、一家こぞつて嬉し涙にくれた。

又新聞の探訪員がその行く先から、随時に而も極めて迅速に記事を通信する場合にもよからう。刑事が犯人を追跡中その状況を報告し更に命令を俟つにもよからう。探検家が旅行先から研究を發表するにもよからう。飛行家が傳書鳩の一雙を飛行機上に携行して、不時の故障をその出發地點に知らしむるにもよからう。



(圖版第一三)





(圖版第一)

東京朝日新聞社郵鳩用具一切

要するに以上列挙した以外に、これに似通うた場合も多いだらう。是等を擴張して研究したならその利用の範圍は極めて廣いものであらうと思はれる。併しこれは愛鳩家諸士の研究に俟つことにする。

五 競翔。以上述ぶるところは、主として實用的方面の利用であつて、此處にいふ競翔即ち競技的飛翔は主として娛樂的趣味的方面の用途であるが、これは鳩の素質の改善を促すことになり、有事の日の動員に備へることゝもなる、いはゞ愛國的獎勵の一方法である。

競翔は競馬と類を同じうするもので、各自の飼育する鳩を或る一定の地點に持寄り、時を定めて一齊に放ち、各自の鳩舎に歸らしめ、その飛行距離と飛翔時間とを記録し、その差によつて等級をつけ、賞を與へるのである。この競翔は歐洲殊に佛蘭西が最も盛んで、競翔専用の器械さへ出來てゐる。これは頗る精巧なもので、競翔の際に各鳩にこれを取りつけておくときは、競技が終れば直ぐに飛翔時間も飛行距離も自動的に記載されるから、優劣等級が分かるやうに出來てゐる。我が邦の現状を見るに、民間の愛鳩熱は東京は中野鳩研



究所のお膝下でありながら甚だ振はないが大阪を中心に神戸京都の兩市、一寸離れて高知市等がなか／＼盛んで鳩協會も四五組織されてゐる。今例を大阪の鳩協會にとつて競翔の概況を述べやう。

大阪市には南協會と好鳩會との二協會がある。會員は鳥飼を中心に何れも愛鳩家で社會的地位は種々様々である。今は一週間に一度或は十日に一度競翔會を開く。當日になると、會員各自は自慢の愛鳩を持つて俱樂部に集る。此處で鳩を全部一つの鳥籠に入れて、京都なり神戸なり當日の飛翔地へ送り、其處から一齊に放つ。而して會員各自が自分の持鳩の鳩舎に歸つた時間を記して、再び俱樂部に集まり、飛行距離—飛翔地から各會員の鳩舎までの距離は前以つて測つて記録に止めてある—と飛翔時間とを對照し、其差によつて一等から順次等級をつけ、優勝者には夫々規定の賞品を授與する。賞に入つた鳩は翼に競翔會のスタンプを押して貰ふ。これは月三四回開れる鳩の糶市の時、賣買價格の標準になるもので、詰り此スタンプが遠距離であればあるほど優秀なのである。市の賣買價格は一羽八十錢から千圓内外迄で、買手も買手



(五) 鳩好會











する爲めの豫備機關であることは、決して忘れてはならぬ。

一 第一戦線の附近に架設した有線通信は敵弾の爲めに全く破壊され、無線通信は秘密を保持せねばならぬ關係から簡單なる記號の交換に止まり、回光通信は戦場の砂塵硝煙の爲めに用をなさぬ場合。

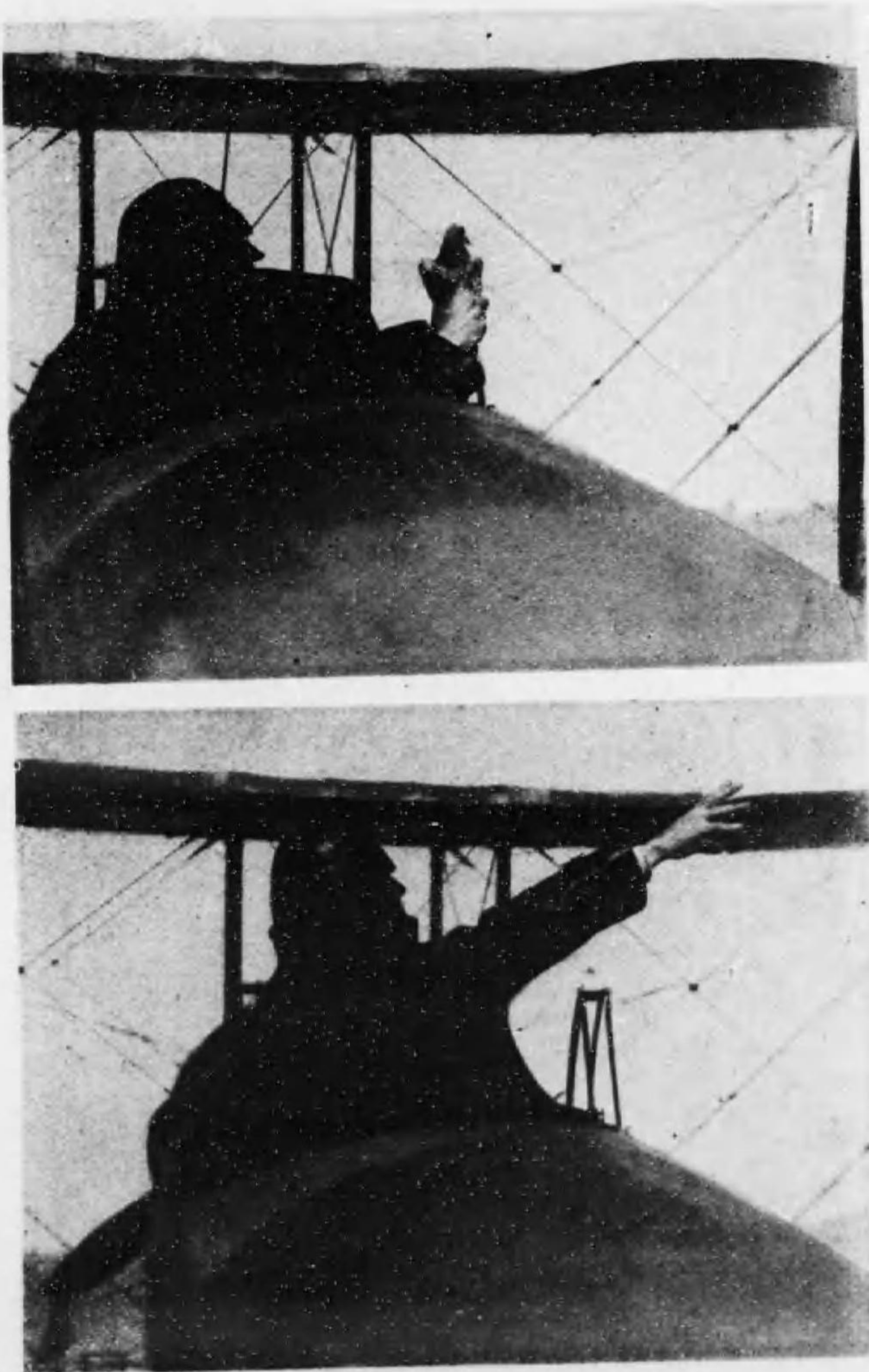
二 探索偵察其の他の重大任務を帯びて敵線内深く侵入し、其の状況を隨時後方部隊に報告する場合。

三 斥候其の他の偵察者又は觀測者が狀況報告の爲めに全然他の通信機關を携へることが出来ないか、又は携へて行つた他の通信機關に故障が出來て通信の確實を缺くやうな場合。

四 緊留氣球上よりする他の通信法の用をなさぬ場合。

五 飛行機上より敵狀を窺かに報告する場合。又は航空中突然の故障の爲めに止むを得ず着陸したときに之を後方に報告する場合。

六 他に通信機關の設けがあつても、それが非常に幅濶してゐて迅速なる通信となすことの出來ぬ場合。



(圖版第一九)

飛行機よりの放鳩



例へば戦況偵察の爲めに下級司令部から派遣された將校とか、又は司令部相互に交換する將校等が、通報報告を發送しやうとしても通信が幅濶してゐて附近の通信網を使用することが出来ない場合。

七 要塞、獨立せる守備隊又は陣地の一部が、敵の重圍に陥り内外の連絡が斷たれて他に通信手段のない場合。

八 討伐隊、派遣隊の如き、小部隊なるが爲めに有線無線の通信機關を携へて行かれぬ場合。

九 タンク、装甲列車等より隨時戦況を後方に報告する場合。

一〇 敵國內に配置してある特別任務者より密かに報告を呈する場合。此の場合に於ける鳩の携行及び補給は、主に飛行機によることが多い。

一一 敵の爲めに分斷された同盟軍又は友軍間の通信にして秘密を要する場合。

以上の場合に傳書鳩はその獨特の能力を發揮する。この外に種々なる場合があるが、餘り専門的になるから此の位にして置いて他は省略する。



## 第三章 傳書鳩の性能

## 第一節 傳書鳩の歸巢性

余は幼時から鳥類を飼ふ事を好み、常に雲雀の宙飛や、頬白、瑠璃を仕立て、方々から放ち己の巢に歸らせては娛しんだものである。此の己が巢に歸へる力は鳥類の特性である。就中鳩は他の鳥類に比べて馴致し易く、重大なる遺傳の壓迫を享けてゐるので、此の特性は殊に著しい。此の鳩の歸巢性は單にその本能に因るか、それとも地形に關する視覺と記憶力との鋭敏優秀なるに因るかはよく分つてゐない。その原因が何れにあるにせよ、歐洲戰場での實驗に徴すれば、七十哩を越えない距離を飛翔せしめる時に、耳骨の上部にある三半規管内の方向を判定する官能の中樞に故障があれば、全く方向判定の能力を失ふといふこと、盲目の鳩が歸來し得ないといふことから見て、鳩の視覺と記憶力とを重要視してゐることだけは争はれぬ事實である。が夫は今

日尙ほ世界の奇蹟として養鳩術進歩の一大障礙を呈して居る。勿論此靈能に就ては、學者間に、視力説、波動説、逆行説、本能説と謂ふた風な説はあるが、何れが果して眞であるか、未だ萬人を首肯せしめるのはない。

一 視力説。之は、ホイットマン氏や、ブルツセル氏の主張する説で、眼で視て鳩舎の方向を定めると謂ふのであるが、鳩は約三丁以上の上空には、あがらないから、三丁の上空で四方を眺めたところで周圍三、四里以上は見渡せまい、どうして數十里、數百里離れた處の鳩舎が判る筈がない。又練兵場の様な處に、訓練未完成の鳩を入れた移動鳩舎を一地に靜置し、そこに鳩を馴らした後、鳩舎の見透しのつく少し離れた處から放鳩するので、但し放つ前に鳩舎を二十間程位置を移すと、放鳩地から鳩舎は瞭り／＼見えて居るに拘らず、鳩は其移動先の鳩舎には這入らず舊位置の上空に旋回飛翔して居る。此際鳩舎を舊の様になほせば喜んで飛込むが、さもなければ何時迄待つても、新位置の鳩舎には這入らず、疲勞するに連れ、鳩舎のあつた跡の大地に降下佇立するので、要するに歸巢は視力には依らぬものと思ふ。



二 波動説。之は鳩舎の位置から起る一種の波動を鳩が感ずること、丁度太陽の光線が空間のエーテルを傳はつて、夫が吾人の目に達すると同様だと謂ふのであるが、波動其ものゝ正體が判らぬ今日、信用は出來ない。矢張架空の説ではなからうか。

三 逆行説。佛國レナール少佐の説で、氏は、レンヌからアール港へ、鳩一籠を汽車輸送し、更に其港から紐育行の汽船で沖合に乗り出し、船上から放した處、其中の一羽がアール港に還り、其處で一夜を明かし、更に出發地レンヌの鳩舎に還つたのに依り、起つた説であるが、數十羽中の一羽が往路を、たどつたからと謂ふて、直ちに鳩が一度通つた道を頭に映じて居て其往路を逆行して歸舎する證據にはなるまい。

四 本能説。これは鳩に、第六官があつて、それにより方向を判定すると謂ふのであるが、予は此説には大賛成を表し、大に共鳴するのである。人間でも、途に迷ふた時には小便すると方向を考へ出せると俗の例もあるが、之は氣を静めて、よく通つた道を考へると、何等理由はない。偶然の結果頭へ方向が

浮ぶのであらう。人類は智識が進んで居るから其智で方向の判定が出来るが、無智な動物に對しては、其智を補ふ爲めに、第六官を天が賦與したと考へるが適當ではあるまいか。

傳書鳩は其第六官を働かすことに於て、代々訓練された結果は習慣となり、遺傳となり、靈能となり、偉大に發達したものと考へられる。何れにしても吾人は此の歸巢の事實を上手に利用すれば宜いのである。而して歸巢の熱情は、雌雄相愛する愛情は勿論、雄にあつては己が巢であるといふ、いはゞ所有觀念の強い爲めに、雌にあつては母親としての愛情言換へれば卵及び雛に對する愛情が熱烈である爲めに惹起されるのである。併し、雌雄共にその巢に在つて棲み心地のよいこと、飼主の取扱が深切であること、及び平和靜穩であること等が最大要件であることはいふまでもない。之に反する時は、鳩は歸巢の念を起さぬのみならず、却つて己が巢を厭忌して失踪するものさへある。されば鳩飼は衷心から鳩を愛し、深切で溫和で、常に鳩の表情的舉動に留意して、飼育し訓練するの心掛けがなくてはならぬ。



此の鳩の表情的舉動は、飼育に訓練に重大なる関係のあるものであるから、次に余の觀察を遂げた二三に就いて述べて見やう。

## 第二節 傳書鳩の表情

- 一 爽快の時。背伸びをなし、又は一方の翼を敷き臥せるやうな姿勢を取り、或は武者振ひしながら嘴で身體各部を啄く。
- 二 不快の時。元氣がなく、舍内の片隅に静止し、眼光鈍く、例へば或は頭上や腮の小羽を逆立て、嘴を少し上方に向け口を開いて呼吸し、口腔或は咽喉が病氣に罹つてゐる、或は夜間貧乏振ひをなし、羽蟲が寄生してゐる、或は身體總毛立ち片脚で佇立し、擧げた脚に何か故障がある、たりする。
- 三 空腹の時。一目見たゞけて鳩の空腹を知るまでには、不斷の努力と微細の觀察とを要する。舍内で遊んでゐる様子が何んとなく落付かず、ソワソワしてゐるか、或は鳩飼が舍内に入れば常にも増して頭といはず背といはず、烈しく飛付いたり、靴や草履を啄いたりして如何にも餓を訴へるやふな素振りをする。

四 満腹の時。體を緩たりしてさも怠るさうなやうに見える。又嘴で兩翼その他を搔いて羽の居仕舞を直したり、食残りの餌などを弄つてゐる。

五 渴の時。一般に翼に力がなく見るからに怠く、眼をバチバチさせ、嘴を締りなく開く等、吾々が渴いた時と同じである。

六 疲勞の時。總じて元氣がなく、食慾も進まず、兩眼を閉ぢて舍内の片隅にじつとしてゐる。非常に疲勞してゐる時は、己が巢房内に蟄居し、玉蜀黍や豌豆のやうな大粒の餌を攝らずに米のやうな小粒のものを攝り、水もグイ呑みせず、チビリ／＼、兩三度に飲んで居る。されば何んとなく羽色も光澤なく、眼光も衰へ、見るからに疲勞の度が思ひやられる。

七 驚怖の時。非常に驚いた時は體を細くして今にも飛立ちさうな素振りを見せ、一寸驚いた時亦體を細くして側に四五歩蟹歩みをやる。要するに驚怖した時は體を細め、眼を怒らし、周圍を凝視する。又夜間舍内に異狀が起れば、眞先きに見つけた鳩は、呼子ならぬ「グ、グ」を連發して、急を仲間へ告げ



る。

八 悲哀の時。愛する配偶者を失うた場合などは、終日巢房内に蟄居して羽毛を逆立て、悲哀の情がそゞろに窺はれる。

九 憤怒の時。極度に興奮した時は驚怖時と同一であるから、その前後の動作によつて想像するより外に仕様がなないが、巢皿に抱卵してゐる時に鳩飼が手を差入れると、嘴か翼でその手を叩き、又頸部の羽毛を逆立て、グウーグウーと痛音を發してから驚怖時の状態に變ずるやうである。

一〇 發情の時。これは雌雄によつて異なる。雄は尾羽を下げてこれを地面又は床上に摺附け、ゴロツポー、ゴロツポーと咽喉を膨らまして雌の周圍を舞ひ、その跡を追ふ。又巢房に在つては、愛を媚ぶるが如くグウーグウーとさも甘つたるい聲をして巢皿又は巢房の片隅に蟄み、兩翼を微かに動かしてゐる。之に反して、雌は雄の側近く摺寄つて嘴でその頭部又は眼の邊を啄き、丁度鶏が嘴で自分の體の羽蟲でも取る時のやうな様子をなし、終に雄に接吻を強ゆるやうな態度をする。發情の濃厚な奴になると、雄の背部に飛乗るこ

とすらある。

一一 産卵の時。雄は精々と糞や落羽をくはへて來て巢皿に盛る、すると雌はその材料を使つて己が好みの巢を營み、此處に産卵する。若し巢が出来上つても雌がその内に靜止せぬやうなことがあるれば、雄は雌を追廻して巢房内に追込める。それから舍外運動中は雄は雌の舍外に在るを喜ばず、兎角舍内に追込めやうと努め、その跡を追廻することがある。つまりこれは、お前は産褥に止まり早くお産を濟ませと注意深く促すのであらう。夫婦間の情は眞に濃やかなもので、鳥ながらも感を深かうする。かくて雌は産氣づけば、尾羽を下げてだんぐりに臀部を垂れる、丁度雌鶏のするが如くに。

一二 水浴の時。鳩に水浴は必要である。出來得れば夏は隔日、春秋は四五日目、冬は一週間一回が適當である。止むを得ぬとしても、少くも平均五日目にさせるが良い。久しい間水浴を怠る時は、鳩は水與器に嘴を入れてその濡れた嘴で體を撫で、羽を潤し、丁度水化粧でもするやうな眞似をする。



## 第三節 傳書鳩の飛翔能力並通信携行法

次に鳩の飛翔能力印ち通信能力に就いて述べて見やう。鳩の壽命は確かとは分らぬが、二十五年以上その生を保つものがあるから、先づ人生五十年といふと同じであらう。そして生後二年目から五六年間が現役格、飛翔能力の最良期で、その後は豫後備役格で漸次能力が減退して行く。現今傳書鳩として最も優良なる者は一氣に百五十里乃至二百里を飛翔し得るも、一般に確實な通信距離はと問はれれば三十里と答へやう。その飛翔速度は一里を四分と概算すれば良いが、勿論氣象、天候に至大の關係がある。無風又は順風の時は一分間に千二百米突(十一丁)乃至千七百米突(十六丁)を飛翔し得るものが、一順風といふても鳩の速度より迅くは、却つて羽を逆立て、工合が悪い。逆風の時は八百米突(八丁)乃至九百米突(九丁)を飛翔し得るに過ぎない。又飛翔高度も飛翔速度と同様に氣象、天候に左右されるもので、無風の時は普通約五百尺、逆風の時は先づ方位を定める爲めに高く飛び、次いで地上より二百尺乃

至三百尺の低空に降り、若し樹木や家屋等の障礙物がなければ、更に低空に下る。之に反して順風の時は最強順風に乗じやうとするのであらう。普通飛翔高度以上の高空に飛昇する。細雨雪、濛氣の際は飛翔速度も飛翔高度も成績が一般に良くない。

序でに通信文携行即ち信書傳送について述べると、信書は規定の用紙に一切の事項を認め、之を三通作り、内一通は信書原簿に保存し、二通は發送する。信書はアルミニウム製の通信筒に入れ、之を鳩の膝下なる脚部に口繪にある如く、餘に強くなく緩くなくよい加減に附ける。又寫眞とか地圖とかのやうに折目のついて可かぬものは、通信用腹掛——丁度子供用エプロンの形に作り頭から脚の後方に懸けてやるもの(口繪参照)——に收めて發送するが、之は幾ら注意しても無理が出来て飛翔能力を殺ぐ虞れがあるから、餘り使用せぬ方が良い。此の通信筒なり通信用腹掛なり受取つた者は、軍隊にあつては所屬長官に速かに進達するし、民間にあつては名宛人が開封するのである。



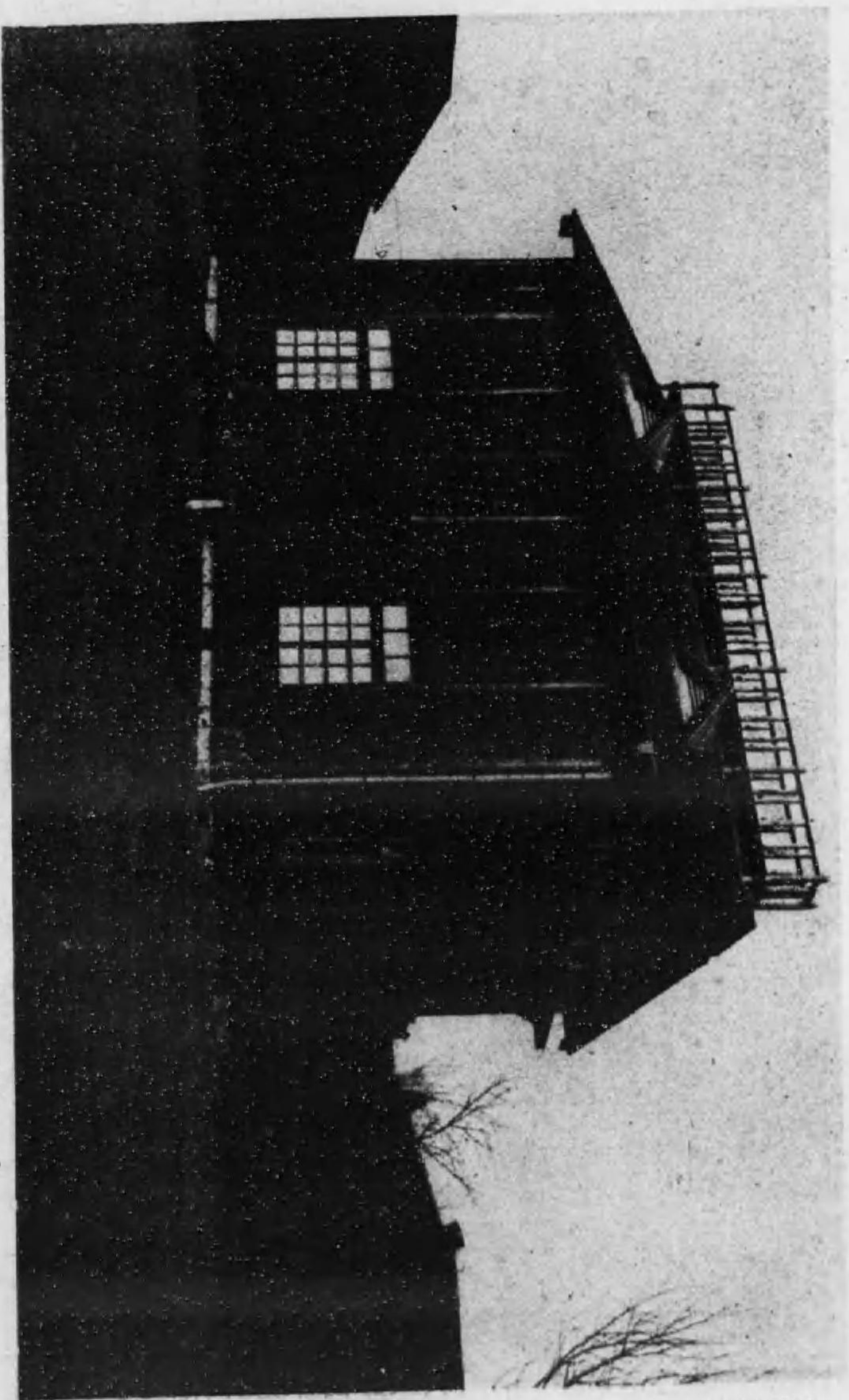
## 第四章 鳩舎及鳥籠

### 第一節 鳩舎の種類及設備

鳩はこれを鳩舎に飼育する。鳩舎は特定の地點に設置され、鳩が信書を携帶して歸還するところである。これに固定鳩舎と移動鳩舎との二種がある。

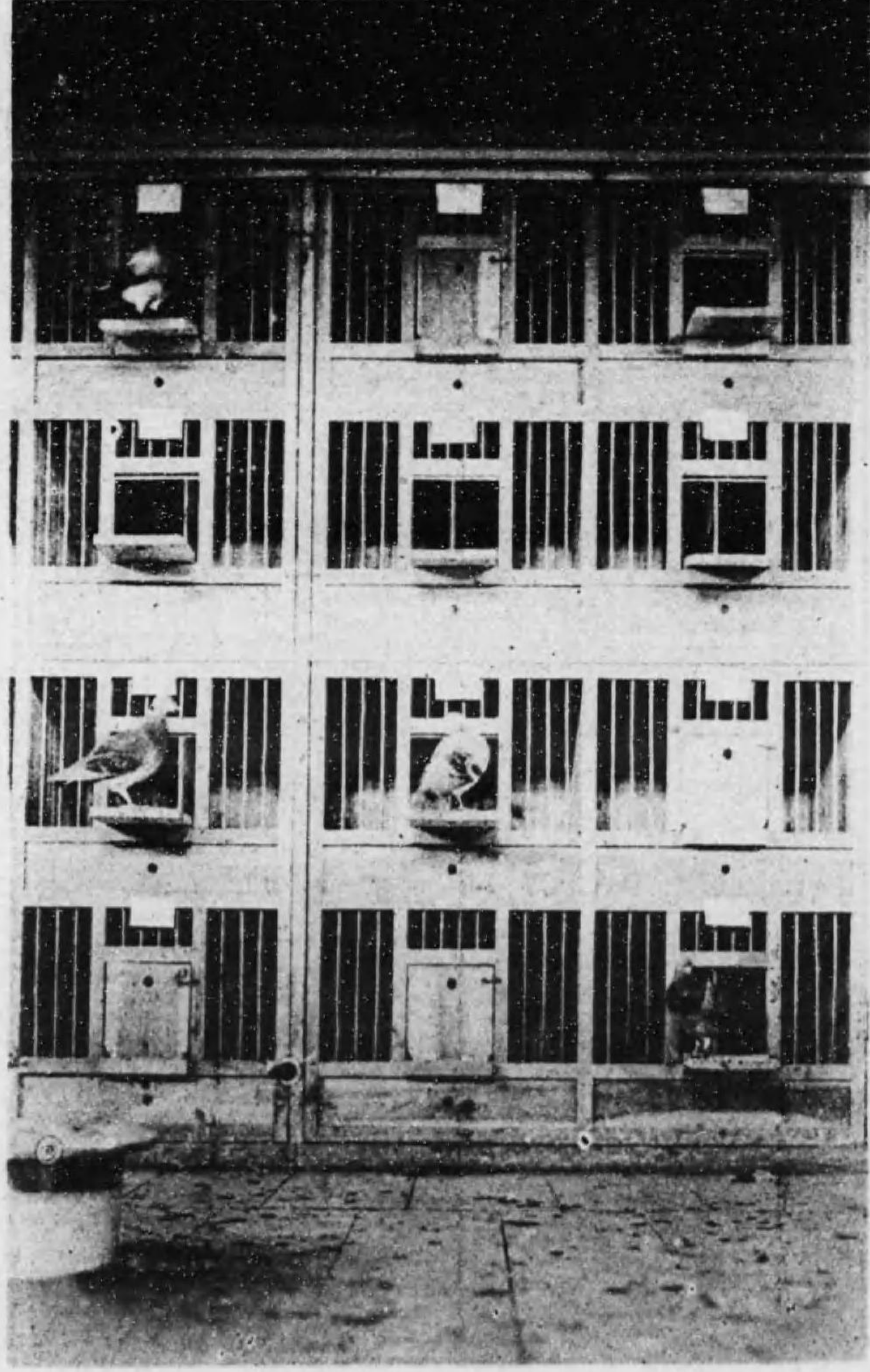
固定鳩舎は民間では住宅や倉庫の屋根裏などに、陸軍では特に木造小舎を構築する。鳩舎は鳩の數に應じて大小あるが、一個の大鳩舎よりも數個の小鳩舎の散在してゐる方が萬事に都合が好い。鳩は元來高い處を好むから鳩舎は成るべく高い處に高く建てるが宜い。若し在來の家屋の屋根裏を改造して鳩舎にすることが出来れば經濟上からいふても好都合である。それから鳩舎地には成るべく周圍に電柱や喬木のない地を選ぶべきで、それは鳩の飛翔中に負傷する虞があるからである。

鳩舎の内部は光線流入して通氣よく、奥行の浅い方形の巢箱を一侧に積み



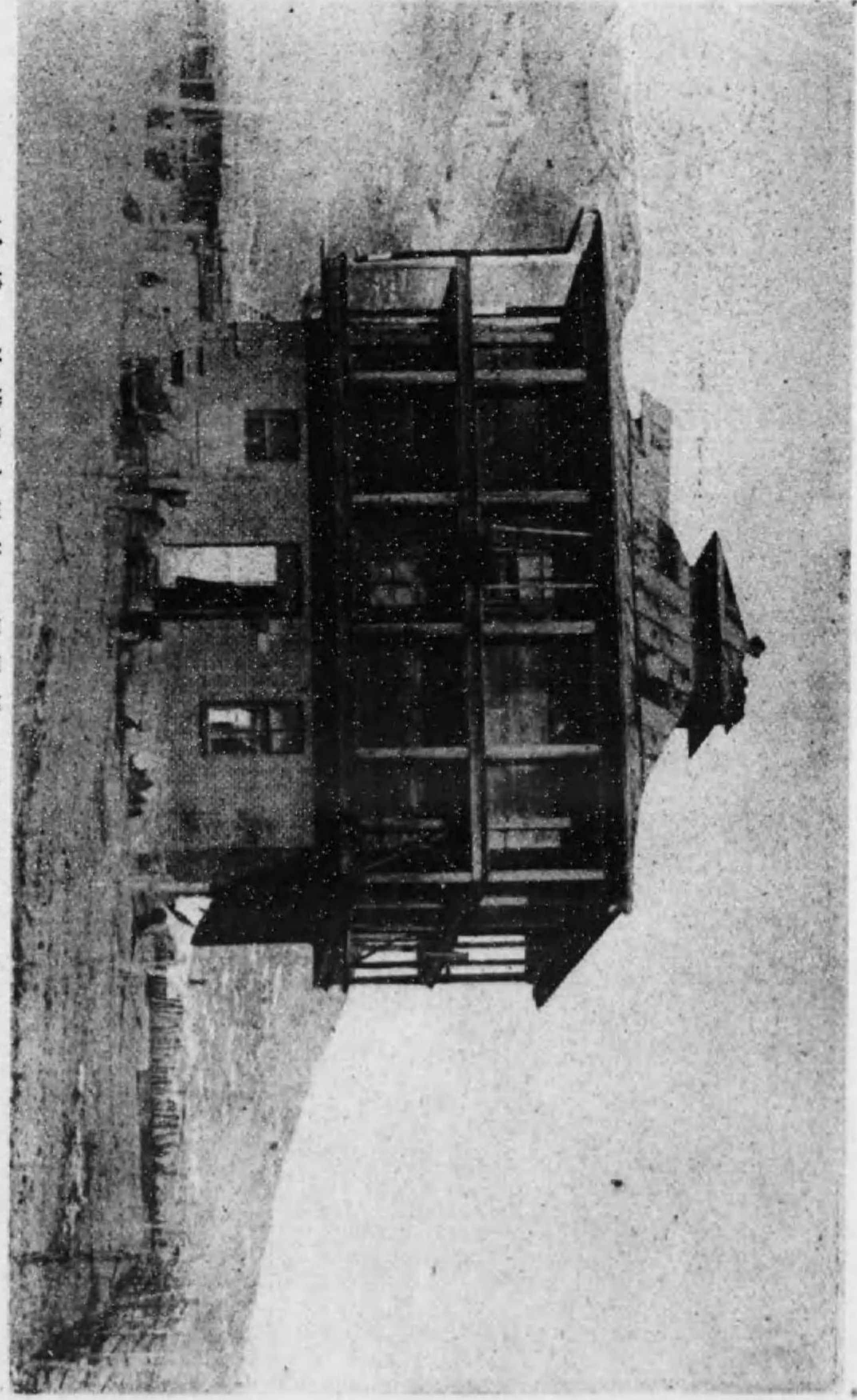
(國政院)





固 定 鳩 舍 内 部 (軍 用 鳩 調 査 所)

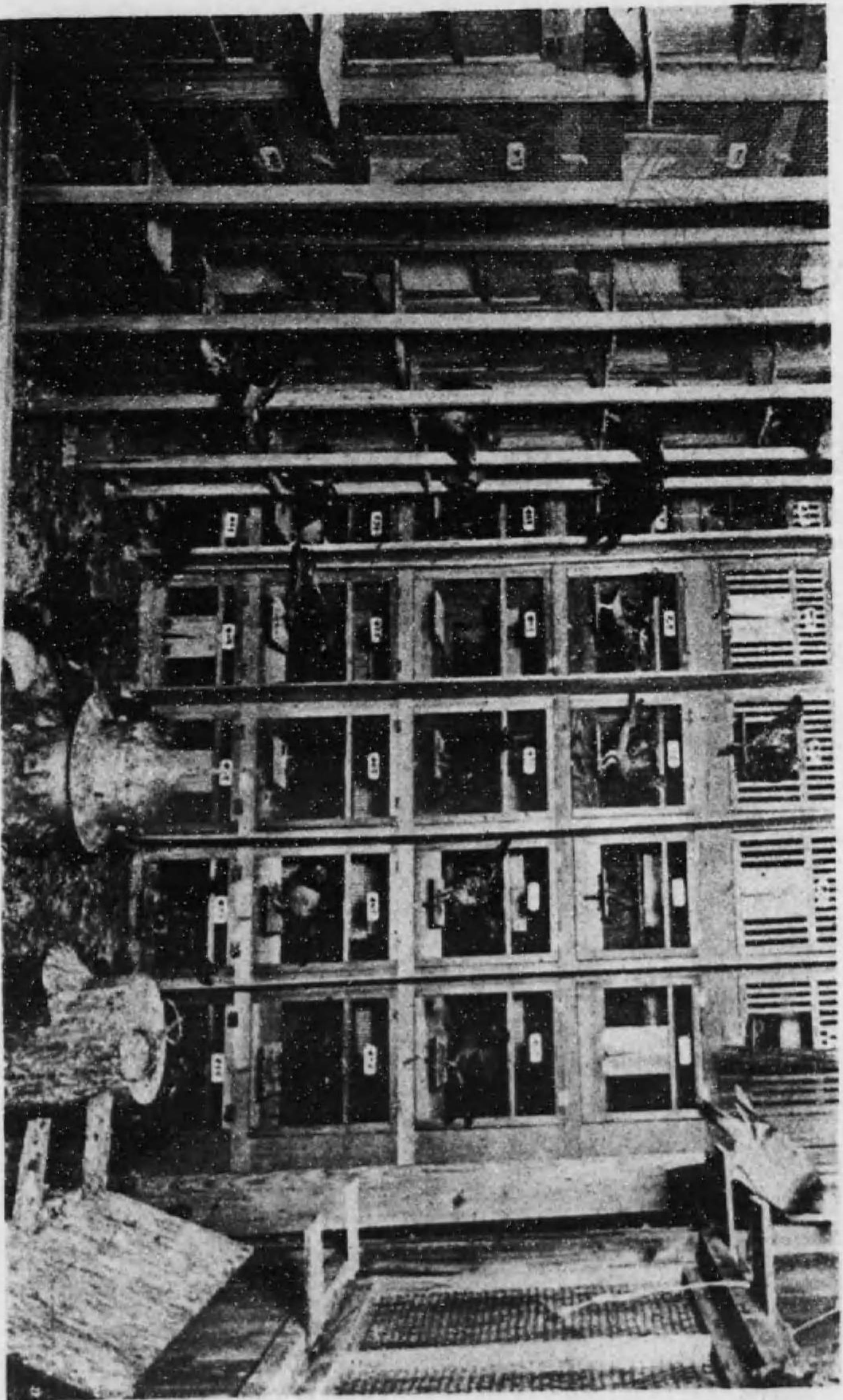
(三二第版圖)



(一三第版圖)

露 國 固 定 鳩 舍 (片 道 距 離 通 信 使 用 沙 浦 鳩 舍)





(圖版第三)

(內邸氏松赤戶卯部內舍鳩定固)



(圖版第二四)

手曳十二羽入移動鳩舍





(圖版二五)

舍鳩動移入羽十三曳馬一

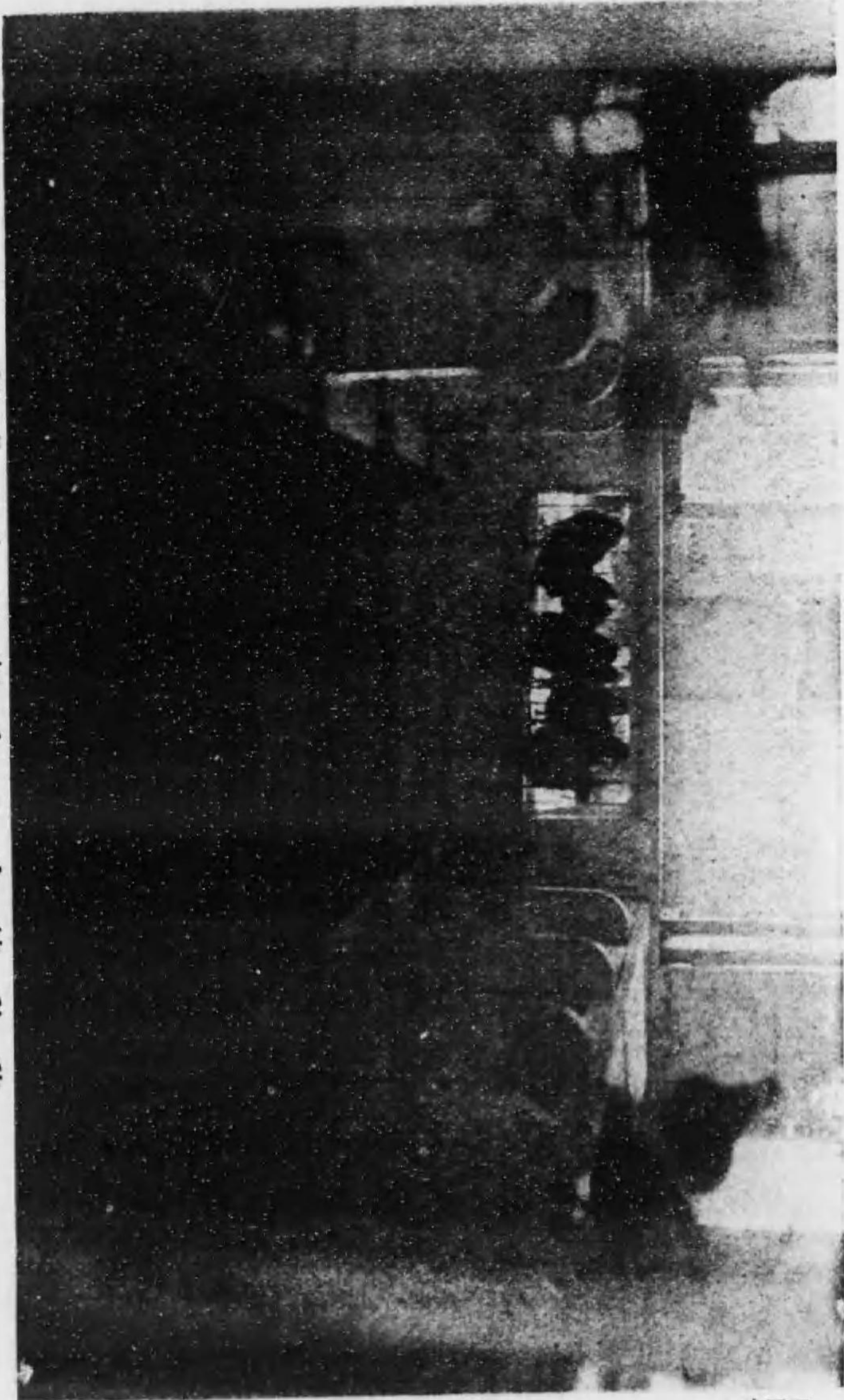


(圖版二六)

四馬十六羽入移動鳩舍於和平紀念東京博覽會場



(況景の舎人) 部内の舎鳩動移



圖版第二八



(圖版第二七)

車鳩動移入羽十六隻馬四



重ね尙ほ其床上に砂を敷くがよい。

移動鳩舎は世界大戦に佛軍の考案したもので、傳書鳩にとつては一大革命といふても過言でない。最初——歐洲戦の二十年ばかり前に——一騎兵大尉が従來の固定鳩舎の缺陷を一々指摘して、移動鳩舎の必要を主張した。當時所謂飼鳩家を以て自ら任じてゐた連中は、彼の主張に耳を藉さず一笑に付したものである。ところが此の一騎兵大尉の主張が過般の世界大戦に實現されて絶大なる功を奏したのである。

移動鳩舎は馬力又は發動機によつて軍隊とその行動を共にすることが出來、内部は固定鳩舎のそれと變りなく、一舎に十二羽乃至七十五羽を收容することが出来る。併し、此の鳩舎は始終移動してゐる關係から、これに收容されてゐる鳩の飛翔能力は、固定鳩舎のそれに比して劣つてゐることはいふまでもないが、通信機關を隨時所要地點に携行し得る效力に至つては、迥かに固定鳩舎に優つてゐるのである。



## 第二節 鳩舎の掃除

鳩は特に舎の清きを好む。鳩舎の潔不潔はその愛着心惹いては歸巢性に至大の關係を及ぼすから、鳩舎の掃除は入念になすべきである。何となれば、一は外部寄生蟲の發生は多く鳩舎の不潔に因るから、二は餌は舎内の床上に撒いて鳩がこれを啄むものであるから、三は舎外の通信勤務の際に居所を清潔にしておいて彼にとつては唯一の慰安所たらしめ歸心を促す必要から。毎日の掃除は鳩が舎外運動をしてゐる間になすべきで、丁度乗馬隊に於ける厩當番卒が演習に出かけた後に掃除すると同様である。掃除には巢房内窓際、床板、鹽土容器、水與器の順に手入れをなし、舎内の乾燥を保つ爲めに努めて水を使はぬ方がよい。鳩は生來寒暑に對する抵抗力は強いが濕氣には弱いものである。

月一回位外部寄生蟲の發生を防ぐ爲めに、生石灰を膠と共に水に溶かし、その攪拌した液を舎内隅なく撒布するがよい。それから春秋二回孵化育雛に

差支のない時期に、晴天の一日を選んで大掃除をする。その掃除順序は、

- 一 鳩をすべて鳥籠に移し舎外に搬出する。
- 二 附屬器具を全部舎外に取出す。
- 三 糞を掻き、埃を拂ふて舎内を清め、噴霧器で約六十%のクレゾール液を天井裏から周壁、巢房及び器具に撒布し、乾いたところで更に生石灰と膠とを水に溶かし攪拌した液を塗布する。
- 四 外部寄生蟲の中で最も恐るべきはワクモで、曩に鳩の表情の處で不快な時に夜間貧乏振ひをする事を述べたが多くこの蟲の爲である。若しこれが發生した時は鳩舎を焼却するか、さもなければ熱湯を注ぎ、後三十%のクレゾール液を撒布すること一週間二回宛で一ヶ月も繼續すべきである。

## 第三節 鳩籠

鳩籠には搬送用籠、休憩用籠、徒歩及乗馬用籠、飛行機用籠等種々の型がある。搬送用、休憩用のものは楊柳枝で編み——毒瓦斯防護用の布袋が附いて



ゐる。鼠、猫、蛇、鼯等の害を防ぐ爲めにこれに金網をかけて搬送する。徒歩及乗馬用のものは楊柳枝で編み、極めて軽く出来てゐて、内部はいくら動揺しても鳩に苦痛を與へぬやうに、ハンモックのやうな弾性の仕掛がしてあつて、英國式は四羽を、佛國式は二羽を收容する。運送者はこれを背部に負ひ、附屬革紐で肩から釣る。これに革製の餌袋と水鉢と、天地のない折疊みの出来る、そして天井に網を張つた楊柳枝籠とが附屬してゐる。籠から鳩を取出して放つ前に、一旦此の折疊籠に入れて十分休息を與へ、然る後通信筒を附けて放つのである。



(圖版第二九)

籠鳩たれさ帶携に兵騎



## 第五章 傳書鳩の飼育

野性の動物はすべて、その身體に最も適當な飼料と分量とを選択して誤らぬといふ特性を備へてゐるけれども、それが一旦人間に飼育せられてその保護を受けると、今度は此の自然の特性は漸次に失はれて、遂に非常の注意と保護を受けなければならぬやうになるものである。傳書鳩はこの意味に於て已に大分その自然の特性を失うてゐるものである。それでこれに對する保護は非常に大切なもので、この保護を怠ると病鳩が出来て、鳩舎の總ての鳩を斃すやうなことになる。これを保護するには何うしたらよいか。それには鳩舎内を清潔にして傳染病若くは寄生蟲の發生を豫防し、賊風の侵入を防いで感冒やこれから生ずる一切の病氣を豫防し、飼料を十分精選して與へる分量と時間とを一定して消化機關の健全を計り、これと同時に運動を調節して常に鳩體の健康を保ち、何時でも人間の要求する多大の努力に應ずることの出来るやうにするのである。本章に於ては是等の保護方法中飼育につい



て述べることにする。

### 第一節 飼料の成分及性質

飼料は主として植物質、礦物質のものであるが、大部分は植物質のものである。植物質飼料といふのは、水分と乾燥物とから出来てゐるもので、つまり水分を取り去れば後に乾燥物のみ残るものである。この乾燥物の成分は有機物と無機物とから出来てゐて、有機物中には含窒素物と無窒素物とが含まれてゐる。含窒素物といふのは蛋白質と蛋白質以外の窒素を含んでゐるものの謂で、これを通常蛋白質と非蛋白質即ち窒素化合物とに區別してゐるのである。

蛋白質は窒素、炭素、水素、酸素及び硫黄等から出来てゐるもので、蛋白質なる名稱は窒素化合物のある名稱であつて、決して一定量の窒素を含有してゐるものでない。又今日の化學分析法では各種の蛋白質は残らず定量されてないから、蛋白質はすべて一定量の窒素を含むものと見做し、且又飼料中の窒素は

皆な蛋白質の形に於て存するものと假定して、各飼料を比較するのである。かやうにして計算された假定蛋白質を粗蛋白質といふてゐる。言換へれば純粹の蛋白質と非蛋白質窒素化合物とを合せたものを粗蛋白質といふのである。さて蛋白質は含窒素養分中の最も大切な者で、動物體の血液、筋肉、卵等を構成するところの重要な成分である。そして蛋白質の含量は飼料の種類によつて大變に差のあるもので、例へば植物の種類、植物の成長時期及び植物の各部分によつて、含まれてゐる蛋白質の量に大なる差のあるものである。概していへば、植物の中で最も蛋白質に富むものは、豆科の植物であつて、殊にその子實である。

非蛋白質窒素化合物といふのは、主に、アミド、酸化合物であつて、幼稚の植物に多く含まれてゐるが、成熟した子實には殆んど含まれてをらぬ。これは蛋白質によく似てゐるけれども、營養分として蛋白質ほど貴重のものでなく、體内で消化せられて最後の生成分は蛋白質のそれと同様、尿素を生ずるので、蛋白質の代りをなすやうに一般に思はれるが、實際蛋白質の代りにはならない、唯



だ動物の体内で蛋白質の消費を多少勘くする位のもので、直接營養分としての效能はない。

無窒素物といふのは、主に脂肪と炭水化合物をいふので、共に炭素、水素、酸素から出来てゐる。分析上試験物を「エーテル」液に入れて溶解し、その溶解したものを脂肪といふのであるが、純粹の脂肪の外に蠟質、葉綠素なども「エーテル」に溶解するところから、如上の分析によつて得た脂肪を通常粗脂肪と稱してゐる。それから炭水化物といふのは、可溶無窒素物と纖維との合成物のことで、試験材料を稀薄の酸及びアルカリ液中に入れると、これに溶解するものと溶解せぬもののが出来る。その溶解する方が可溶性無窒素物で、溶解せぬ方が纖維である。可溶性無窒素物は普通糖類、澱粉、糊精の如きもので、植物にあつては固形質の大部分を成し、草食及び雜食動物にあつては食物の大部分を占める。纖維は消化不良で營養價值も少ない、併しこれによつて腸の蠕動を促し、食物の腸内通過を圓滑にするのであるから、全然攝取しないわけにはいかぬ。さうかといふて、纖維を餘り多く採食するときは、食物の腸内通過

緩漫ならしめ、従つて食物を停滯せしめるといふ虞れがある。

つまり纖維は少量が必要、大量が有害といふことになる。要するに營養上の作用からいふと、脂肪は動物體に吸収せられると成分中の炭素が体内燃焼を起して體温と力とを供給し、又動物體の脂肪となつて体内に蓄藏されるのである。炭水化物殊に可溶無窒素物——も同様に、動物體內に吸収されて血液中に入り、燃焼して熱と力とを與へ、且つ他の營養分である蛋白質や脂肪の消耗を補ひ、又自身變化して脂肪となるとも出来るといふ中々大切な養分である。以上は飼料中の有機物について述べた。それでは飼料中の無機物とは何んなものかといふに、有機物以外の植物の組成分をすべて無機物といふので、例へば加里、曹達、石灰、苦土、磷酸、硫酸、硅酸、鹽素の如きものである。無機成分は有機成分と同じやうに動物の營養上缺く可からざるものである。

## 第二節 飼料の營養價值

前節に於て飼料の成分及び性質を述べた。この各成分が種々の割合に混



合して動物體の榮養となるのであるから、その中の一つの成分でも缺けると榮養上に何等かの故障が生じて、直ちに動物體そのものに影響することになる。されば實際に飼料を給與するときは、各種成分の榮養價値を考へて混合の割合を定め、それと同時に同一の榮養價値を有つてゐるものならば如何なる割合で混合したら最も經濟であるかを考へねばならぬ。

今如何なる方法で如何なる飼料を混合すれば最も有效であるかについて、少しく述べて見やう。

前に述べたやうに、動物の必要とする養分は數種あるから、これを動物個體に適するやうに種々に配合せねばならぬ。それには各飼料の分析上の成分を基礎として、その成分の割合を見て各種の飼料を旨く配合すればそれでよいわけのものではあるが、これが中々むづかしいとである。それでも動物の飼料については理論上、實際上略々飼養要領なる者が出來てゐるが、鳥類については一部の研究に止まり、嚴密に飼養の得失を云々し得るほど發達してゐない。その原因の一は鳥類は動物に比べて消化試験の方法が非常に困難で

あるからである。即ち、動物にあつては尿と糞とを別々に採收してその排泄物を嚴密に取調べ得るに反して、鳥類にあつては尿と糞が一所に排泄せられるのでそれが出來ないからである。かやうに鳥類飼養に關する實驗的研究報告すら十分公にされてないのであるから、特に鳩の飼養についてある筈がない。吾人は吾人の研究を俟つまでもなく、愛鳩家各自の攻究を希望するものである。

動物に與へる榮養分中で最も必要なものは蛋白質、炭水化物及び脂肪の三つであるから、此處には主として此の三つについて述べよう。灰分等は動物の榮養分としての必要量が極めて少量であるから、通常は飼料中に含まれてゐるだけで不足なことはない。但し食鹽は別に、カルシウムも時々、給與する必要がある。而して榮養分中の含窒素物と無窒素物とは、前にも述べたやうに動物の體内へ入つてからの働きが幾らか異なる。此の兩者の割合が榮養上大なる關係があるので、通常此の比を榮養率と稱してゐる。併し脂肪は動物體内で燃焼するときは同量の炭水化物の二倍半の熱量を生ずるか



ら、一飼料の栄養率は次の式で計算せねばならぬ。

$$\frac{\text{可消化脂肪} \times 2.5 + \text{可消化炭水化物}}{\text{可消化蛋白質}} = \text{栄養率}$$

而して此の比が一、二乃至四なる時には「栄養率狭」といひ、一、八乃至一、二なる時には「栄養率廣」といひ、その中間のものを「中庸」といふのである。言ひ換へれば「栄養率の狭いものは可消化蛋白質の含量多く、廣いものは可消化蛋白質の含量少いことになる。栄養率が廣狭いづれに偏しても共に損失を招くのである。」

### 第三節 飼料の日量

前節に述べたやうに鳥類の飼養に就て的確の研究がないのであるから、鳩のそれについてある筈がない。そこで本節に於ては、鶏の試験成績に鳩と鶏との日常生活状態の差異を加味して鳩飼料の日量について述べることにする。元來動物に與へる飼料とその栄養率は、飼養の目的及び時期によつて異なる。

る。即ち、換羽の時期、産卵の時期、休産の時期、育雛の時期、運動の時期、非運動の時期等それ／＼異なるのである。然るに各動物は自體を維持して行く爲めに絶えず一定量の飼料を取らなければならぬ。これは維持飼料とか保健飼料とかいふべきもので、時期の如何に係はらず必要とする飼料である。それでは鳩の維持飼料は如何程かといふに、先づ

米國ユトター洲立農事試験場の鶏についての試験成績を見るに、平均體重五、一封度(六百十匁)の雌鶏が一箇年平均二百一個の卵を産み、その一羽一日消費した穀物中の消化性の養分は

蛋白質	.....一五〇瓦(三匁七分五厘)
炭水化物	.....五六八瓦(十四匁二分)
脂 肪	.....五八瓦(一匁四分五厘)

である。併してこれは一箇年の平均であつて産卵の時期も含まれてゐるか、維持飼料より少し大なるものと見なければならぬ。この成績から鳩の平均體量を三百七十五瓦(百匁)としての鳩の維持飼料を計算して見るに、一日一



羽の要量は、

蛋白質：……………二五瓦六分三厘）  
 炭水化物：……………九五瓦二分四厘）  
 脂肪：……………一〇瓦二分五厘）

となる。即ち年中鳩を巢房に入れて卵も産ませず雛も育てさせず、いはゞ休息の状態におくときは、これだけの養分さへ給すればよいわけである。而して此の養分は玉蜀黍、豌豆の混合飼料僅か十七乃至十八瓦四分二分五厘乃至四瓦五分の中に含まれてゐる。

然るに鶏と鳩とでは卵を産むといふことだけは同一であつても、その日常生活状態に可なりの相異がある。鳥類の本能ともいふべき飛行について見るに、鶏は殆んど飛行し得ないが鳩は一日二時間内外の保健的飛行を必要とする。而して此の飛行の爲めに消費される體力は可なり大きい、殊に長距離の連続飛行などではそれは非常なものである。故に、此の飛行の點からいふても、日常産卵時期でなくとも、前掲の要量だけでは到底體力を維持して行

くわけにいかぬ。

そこで鳩が産卵もせず、育雛もせず、大なる労働飛行もせず、單に保健的飛行をなすものとすれば、鳩一羽に對して一日に

蛋白質：……………四、六瓦（一瓦一分五厘）  
 炭水化物：……………一、八瓦（三瓦）  
 脂肪：……………一、〇瓦（二分五厘）

の要量を與へればそれでよいことになる。それでは、これだけの分量を攝るには各飼料を幾何量、それを如何なる割合で混ぜればよいか。これには鳩飼料の分析表が基礎をなしてゐる。

飼料ノ種類		水分		灰分		可消化			
						蛋白質	炭水化物	脂肪	助
玉蜀黍	一四、四			一、三		七、九	六一、八		四、三
水田玄米	一四、三			〇、九		七、七	七三、五		一、九



陸田玄米	一四、三	一、一	八、六	七二、一	二、一
陸田糯玄米	一四、三	〇、九	七、七	七二、四	三、〇
粟	四、	三、三	八、九	四五、〇	三、二
小麥	一四、四	一、七	一、七	六四、三	一、二
燕麥	一四、三	二、七	八、〇	四四、三	四、七
豌豆	一四、三	二、四	二〇、二	五四、四	一、七
蠶豆	一四、五	三、一	二三、〇	五〇、二	一、四
扁豆	一四、五	三、〇	二一、四	五一、二	二、二
大豆	一〇、〇	五、〇	三〇、一	二五、一	五、八
赤小豆	一四、〇	二、六	一五、二	五七、七	一、二
亞麻	一二、二	二、四	二〇、一	一八、九	三、二
芸苔	一一、八	三、九	一五、五	一〇、二	四〇、五
揚花	一四、四	四、三	一四、四	一三、七	二二、八
落花生(脱シメ)	六、三	三、二	二三、七	一一、三	三九、一
苧麻	五、九	三、一	一五、八	一三、八	二八、六
蕎麥	一四、〇	一、八	六、八	四七、〇	一、〇
大麻	一二、二	四、五	三、二	一六、二	三〇、二

故に、此の飼料分析表によつて三成分の要量を満足さすやうに飼料の配合を求めたならば、各自勝手に幾様にもその種類と分量とを定めることが出来る。併しながら、餘り飼料の配合が複雑になると、鳩は勝手に好きな物を撮るといふ我儘を出して、折角飼養者が與へやうとする適當なる分量を確實に與へることが出来なくなる。であるから、出来るだけ此の配合を簡單にする工夫が必要である。通常鳩の飼料としては玉蜀黍、豌豆、玄米及び芸苔が用ゐられるから、是等について三成分の要量を計算して見やう。

玉蜀黍……………一三瓦(三匁二分五厘)

豌豆……………一七瓦(四匁二分五厘)

兩者を混ぜた三十五瓦(約八匁)の成分は

蛋白質……………四、五瓦(一匁一分)

炭水化物……………一二、三瓦(三匁)

脂肪……………〇、八瓦(二匁)

となり、所要日糧に比らべて炭水化物が僅かばかり多く、脂肪が僅か少ない。



此の脂肪の少ない分は、別に少量の藎苔を與へるから、それから補充がつくことになる。故に、平常の飼料日量は玉蜀黍十三瓦(三匁)、豌豆一七瓦(四匁)、藎苔少量を與へればよいのである。

次に放鳩演習の盛んで遠距離飛翔の時の増量如何を見るに、此の際の要量成分は

蛋白質	六、四瓦(一匁六分)
炭水化物	一五、九瓦(四匁)
脂肪	一、五瓦(四分)

だけが必要とする。そして此の養分に最も近い量を得るには、豌豆三十瓦(約八匁)でよろしい。何故なれば豌豆三十瓦の成分は

蛋白質	六、〇瓦(一匁五分)
炭水化物	一六、三瓦(四匁)
脂肪	〇、五瓦(一分)

であつて、所要成分に比べて蛋白質は少し少なく、炭水化物は少し多く、脂肪は

約半量しか得られない。故に豌豆三十瓦(八匁)と藎苔とを少量與へれば此際  
の所要日量が得られる。つまり、鳩を劇しい労働に従事せしむる時は、澱粉質  
の多い玉蜀黍を與へずに營養率の狭い豌豆を與へ、之に反する時は、營養率の  
廣いもの、即ち炭水化物の比較的多いものを與へるといふことになる。

以下飼料を與へる時に留意せねばならぬ各時期について、述べて見やう。

### 第一 換羽期

換羽期とは羽の抜け換はる時期、即ち舊い羽が脱け落ちてから新しい羽の  
生えるまでをいふのである。鳩の換羽期間は鶏などのそれに比べて非常に  
長く、概ね六七月から十一月に至る殆んど半歳を要する。かくては軍用の目  
的に叶はぬ、何んとなれば時と處とを選ばぬ戦術上の要求に對して、換羽が終  
らぬからといふて従軍を斷はるわけにいかぬからである。故に、此の換羽期  
は努めて短縮せしめねばならぬのである。

それでは何うしたなら換羽期間を短縮することが出来るかといふに、中々  
むづかしい問題ではあるが、要は人工的訓練言ひ換へれば飼料の選擇配合に



依るにある。前にも述べたやうに、鳩は生きんが爲めに飼料を要求する、その飼料が消化吸収されて、體力の損耗を補ひ且つ各部機關の働を助ける、即ち卵肉羽毛、血液等の構成分子となるのである。故に、飼料の選擇配合の如何によつて、鳩體は衰弱もすれば強健にもなる。換羽期間を短縮するには、鳩體を人工的に衰弱せしめねばならぬのである。

一體換羽を人工的に早めるには二通りある。一は換羽中でも卵を産ましめ、孵化育雛させつゝ行ふもの、他は換羽中は寧ろ休産せしめつゝ行ふものである。前者は利を見ながら換羽を要求する、いはゞ一度に二要途の爲めに使用することになり、換羽に比較的長い日月を要し、鳩體を衰弱せしめるから、普通の鳩にとつては堪へ難い苦痛である。之に反して後者は成可休産させて、その上蛋白質飼料を少くして炭水化物飼料及び葉菜等の纖維に富める飼料に少量の食鹽を加へて與へ、そして日糧を漸次に減じて鳩體の衰弱を來たさしめ、以て換羽を早めやうといふのである。これはいふまでもなく、羽軸の皮膚に附着する處は蛋白質、膠質等から成つてゐて、蛋白質を減ずれば體は普通

の時季のやうに發散作用はするけれども、飼料の補給が十分でない爲めに羽毛は次第に衰弱して脱け落ちるのである。

かやうにして舊羽が脱け落ちて新羽が生え始めたならば、蛋白質飼料を比較的多く給する。羽毛の構成を速かならしめるには、硫黃華を一日一羽に對し〇・一瓦位宛與へれば有效である。それから、鳩舎内に小礫と木炭末とを備へおく時は、小礫は羽毛の色澤をよくし消化を助け、木炭末は衰弱後に生じた體内の毒素を吸収する効果がある。

## 第二 産卵期

この時期には鳩が産卵といふ特別の働きをなすのであるから、卵を構成する成分である蛋白質飼料、即ち比較的蛋白質を多く含む小麥や豆類を増し與へればよい。實際からいふと、鳩の卵を化學的に分析して得た數字、即ち卵中に含まるゝ各成分の量を知り、この成分に相當する飼料と維持飼料とを混ぜて與へれば最も完全なわけである。

鳩は他の生物と同じやうに、産卵中は非常に神経質になつてゐるから、成る



べく靜肅に飼養する必要がある。若しも驚怖かすやうなとでもあれば、輸卵管内で卵が破裂し、あたら愛鳩を死に致し、或は慢性腸炎を發して病鳩たらしめる虞れがある。尙ほ産卵中は統計上初産に難産が多いから十分に留意し、若し難産のあつたときは速に油脂を鳩の肛門に塗布して安産に導かねばならぬ。

### 第三 休産期

前二期と異なり餘り顧慮する要はない。唯炭水化物、脂肪を多く給しないやうに、所謂中庸の飼料を給することに注意すればよい。さうでない脂肪肥大症に罹り、運動不活潑となり、爲めに産卵もせず、食慾も減退して遂に斃死することがある。

### 第四 育雛期

雛は親鳩によつて多く育てられるから、飼育者は漸次雛の發育に伴うて親鳩に與へる飼料を増して行けばよく、別にこれといふ注意は要らぬ。

併し雛を親鳩の手から離して人工的に育てる場合は、飼料の種類、給與量、給

與法、調理法等可なり面倒なものである。

### 第五 寒暑期

寒冷の時は鳩に成るべく脂肪分に富むもの、炭水化物を多く含むものを與へ、且つ蛋白質を少量用ゐる必要がある。前にも述べたやうに、炭水化物も蛋白質も鳩體中にあつて、化學的變化によつて脂肪の代用もするが、脂肪や炭水化物は蛋白質の代用は出來ない。であるから、成るべく脂肪と炭水化物とに富んだものを與へると同時に、少量の蛋白質を與へるのである。

又、蕃椒の粉か汁を飲水に入れて時々昂奮させることは耐寒上有效である。暑熱の時は成るべく鳩に冷味を與へるやうにすればよいので、つまり寒冷の時の正反對の方法を採ればそれで十分なわけである。

### 第四節 飼料の種類

飼料は消化し易く、吸収し易くして且つ鳩體の構造に適するやうな種類と配合とを以てしなければならぬ。



一 玉蜀黍 これは前に述べたやうに炭水化物や脂肪を多く含んでゐるから飼料として産卵期には適しない。故に、與へ過ぎる時は脂肪の爲めに往々鳩體が黄色を呈し運動不活潑となる。これには蟲がつき易いから成るべく殺蟲して、風通しのよい場所に置くがよい。通常殺蟲には二硫化炭素で燻蒸するか毒瓦斯を代用すれば妙である。種類としては朝鮮産がよい。粒が中位で揃つてゐて品質も可い。次で甲州産である。

二 小麥 これは鳩の好きな飼料の一つである。併し濕つてゐるのを與へると、往々病氣に罹り失敗することがある。産卵中の飼料としては極く適當であるが價が高い。

三 粟 これも炭水化物、脂肪を多く含む飼料で、換羽中に少量使用するのはいよい。併し鳩の飼料としては最も適當のものとはいはれない。

四 豌豆、蠶豆 この二種は共に蛋白質を多く含む飼料で、産卵中の必要品である。併しこれ等は農家の副産物で、纔に畑、田畔等の餘地に收穫するところから、品も少なく、價も比較的高い。

五 玄米 これも重に炭水化物を多く含む飼料で、體內熱の發生に效があるところから、冬季の飼料として多く用ゐられる。殊に礦物質に富み且つ鐵分を含むから、寧ろ可強壯劑である。

六 菜種子、麻、日向花 この三種は共に脂肪分を多く含む、羽毛の光澤を良くし、且つ一の昂奮劑であるから、定期給與飼料以外に少量づゝ與へれば有效だが、量を過ぎると有害である。

七 葉菜類 葉菜は何種に限らず葉綠素を含み、その成分は鐵分を多く含むので鳩の健康上有效の食物である。其他夏季の候には一の清涼劑ともなる。成鳩には何種の葉菜を與へてもよいが、雛には小松菜が最も良好である。

八 飲料水 これは清水に限る。容器は可成陶器製を用ゐるがよい。飲料水の給與に就ては後節更に述べる事にしやう。

九 鹽土 一體は礦物鹽として岩鹽を與へればよいのであるが、我邦に於ては産出が少いから特に人造鹽を與ふべきである。人造鹽といふのは、古煉瓦の粉末、黄土、古石膏、卵殻又は牡蠣末と食鹽とで練り固め、それを日に乾した



ものであつて、その配合は次の如きものである。

黄土百分ノ三十七

煉瓦末百分ノ三十七

卵穀又は牡蠣末百分ノ七・四

古石膏末百分ノ七・四

食鹽百分ノ十一・二

此の鹽土は獨り鳩體に石灰若くは鹽類を供給するばかりでなく、同時に乾し固めた物を啄喰せしめて嘴の生長を適度に制限し、胃の咀嚼作用を助け、且つ鹽類を食ひ過ぎぬやうにする效能がある。

### 第五節 飼料の給與

鳩に飼料を與へる場合には、一度に一食分の全部を與へることなく、一握位づゝ徐々に與へる方がよい。これは鳩に穀物を啄みながら水を飲むことが出来るやうにしてやる爲めである。若し之に反して一時に全量を與へると

きは、鳩は懸命に急いで餌を啄み、それが爲めに胃腸を害する虚がある。飼料は朝十五瓦(四夕)二十瓦五夕を各運動後に與へるのが普通である。其の他朝と晝との二回に嗜好品として亞麻實及び玄米を半量づゝ與へる、つまり子供のお茶うけである。

### 第六節 飲水の給與

鳩は他の鳥類などの到底も企て及ばぬほど適度に水を飲むものである。即ち鳩體の消費に正しく比例した水の分量を攝り、決して過不足を來すことがない。であるから、絶えず新鮮な水を鳩舎内に置いて自由に飲ませるやうにするが宜い。古くなつた水には鳩舎内の腐敗若くは汚染した有毒瓦斯を溶解してゐるから、之を飲ませると消化器から循環器内に入り、鳩體を不健康に導くものであるから、タンクを用意しておいて出来るだけ清水と取替へる必要がある。先づ少くも朝夕二回は取替へてやるがよい。それから、水に鳩



の糞が入ると汚くなるから、水入に蓋をすとか、さもなければ、口の小さい素焼の徳利に水を一杯容れ、これを五徳やうのものに倒さに垂れさせ、その口に水瓶を置く。鳩が瓶の口から一口飲むと、ポコンと流れ出る後は空気の壓力で栓をしたと同じやうに流出が止まる。従て水は絶えず新陳交換せられるといふ學理應用誠に結構な水入である。

若し次に示すやうな藥品を水中に溶解して順次に清水と交互に毎日與へるときは、一層衛生上に効果がある。清水ばかり續けて與へるときには、古鐵類を水中に浸して置くか、さもなければ時々硫酸鐵六十匁硫酸八匁清水五升を合劑とし、之を飲水三合に三乃至四瓦づゝ入れるがよい。

第一日 清水

第二日 約四升の水に重曹一匙を混じたもの

第三日 清水

第四日 約四升の水に硫酸鐵胡桃大の一塊を溶解したもの

第五日 清水

第六日 約四升の水に明礬胡桃大の一塊を溶解したもの

第七日 清水

第八日 四合の水に沃度丁幾一滴を加へたもの

### 第七節 飼料の選擇

鳩に與へる飼料は第一に品質が良くなくてはいかぬ。第二に十分に乾燥——少くも半箇年乃至一箇年——したものでなくてならぬ。さうしないと、ミューゲルといつて咽頭から肛門に至る各所に炎症を起す。これは飼料が悪質で十分乾燥してゐない爲めに嚔嚔中で酸酵して糞壁を刺戟し、此處に炎症を起し、それから漸次消化器系統の各部に及ぶものらしい。これは鳩に取つて甚だ危険性のものであるから、十分飼料の選擇即ち品質の良いもの乾燥したものには注意せねばならぬ。

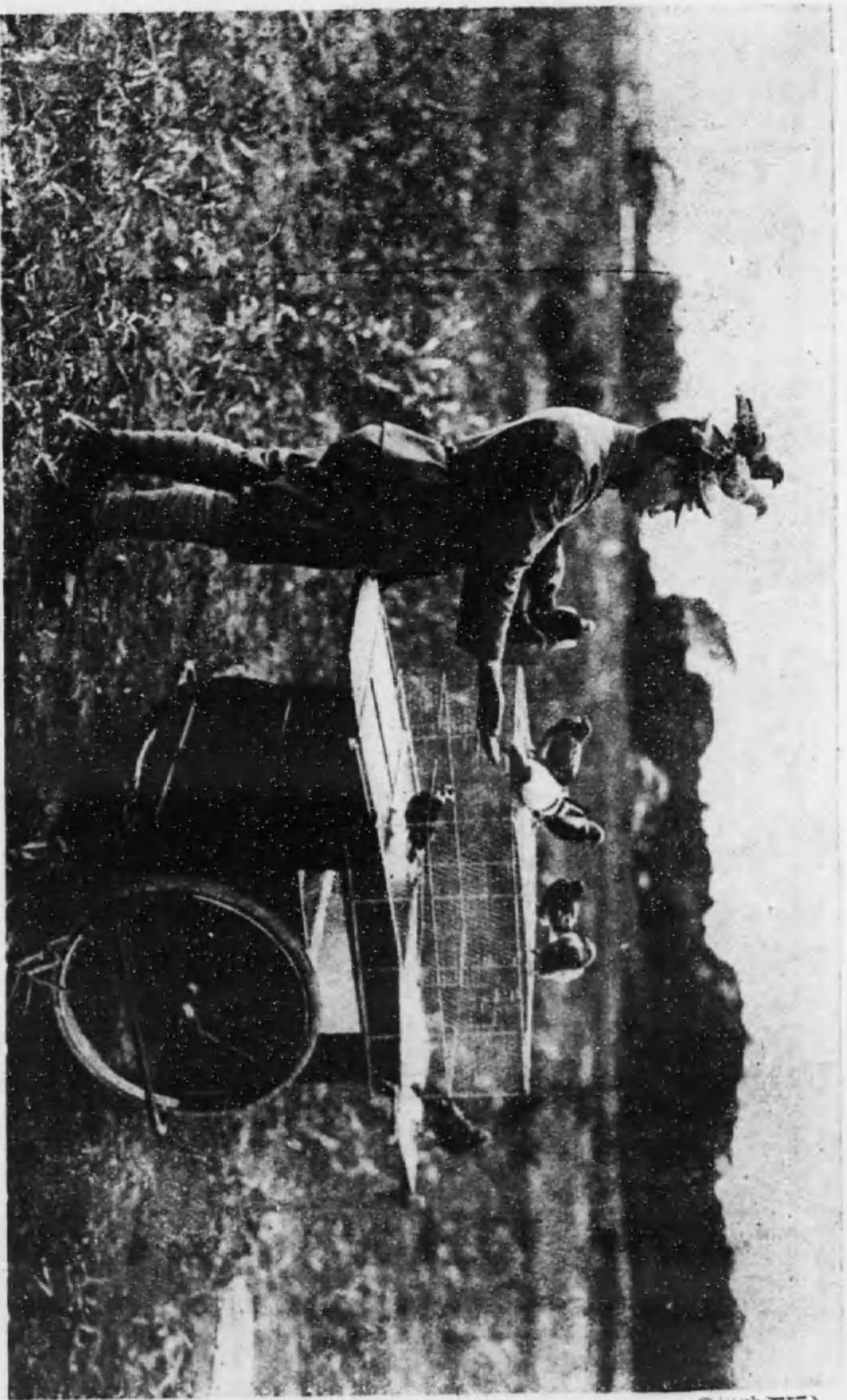


## 第六章 傳書鳩の訓練

愛鳩に使ひさせるには、これを訓練せねばならぬ。訓練しなければ如何に優良なそして可愛い鳩でも十分にその性能を發揮することが出来ない、丁度教育しない天才兒と同じである。又その訓練の方法を誤つても、不良の結果を招來する。以下訓練に就いて少しく詳細に述べやう。

### 第一節 豫備訓練

鳩の訓練を豫備訓練と本訓練とに分ける。豫備訓練は本訓練の何れを目的とするにしても、是非共仕込んで置かねばならぬ大切な筋道で、鳩が飼主の意を了解し、命ずる處に従ひ動くか何うかで、本訓練が順調に進めることが出来るか否かが卜せらるゝのである。それには鳩の歸巢性を利用するより外に途がないから、彼の古巢をいやがうへにも彼に取つての樂園たらしめ、鳩舎の出入には大いに留意し、短氣を抑へて衷心から勞つてやらねばならぬ。先づ



(○川谷野園)



鳩舎出入時の心得ともいふべき事項に就いて述べやう。

第一、服装は常に同一で極く静肅にすること。これは馴致の第一歩で、鳩をして己れの飼主は如何なる人であるかを知らしめる上に必要である。元來、鳩は極く舊弊な鳥で、すべて目新しい事が大嫌ひである。出来る事なら、初めの程は毎日同一人が同一の服装で出入するが良い。序にいふが、鳩は色彩に對して面白い好みを有つてゐる。婦女子の好む桃色オリーブ色、殊に赤色は大嫌ひで、是等の色を見ると非常に恐怖する。此點からいふと陸軍の軍帽は馴致上良くない。次で黒色で、これなどは柔和な鳩の氣質を荒らげる。カキ色は先づ普通で無難。白色は、白ホワイトは愛の象徴イデアなりと洒落たわけでもあるまいが頗る好きである。以上は鳩の好みをいふのであるが、軍事的見地からいへば、戰場に於て鳩舎に擬色を施す必要があるから、何れの色彩にも畏怖せぬやうに馴致して置かねばならぬ。從來屢々耳にする鳩飼の失敗談は、多く此色彩の馴致時代にある。例へば客を招じて愛鳩をお目にかけた、同伴の令嬢は様々に色彩られた洋傘パツルを翳して高聲に談笑された、客去つて後ち鳩を舎外



に放つと、彈丸の使ひか再び姿を見せなかつたさうである。併し、これは左程むづかしい訓練ではない。本訓練に移ればかやうな憂ひは更にないので、最初の一週間か十日間位辛抱して靜に馴致すれば良いが、飼主にとつては此の一週間か十日間位が最も珍しい時で、矢鱈に自慢したいものであるが心すべきことである。

第二 餌を與へる直前にはその都度必ず口笛か、信笛か、銅鑼か、喇叭か、何れかを鳴らすこと、何れを選ぶも敢て差支はないが、選んだ一を毎日用ゐること。これは鳩と人との約束である。練兵了へて空腹か、へてゐる兵士が、食事喇叭の音に「それ飯だ」とばかり勇み立つやうなもので、鳩が舍外に高く快く飛舞うてゐる時、呼子を耳にすれば急轉直下己が鳩舎に歸つて來るのであるが、更に進んで訓練が烈しくなるにつれ誤つて失踪する鳩も段々出來る。所が中には惜しい鳩もあるから自然飼主はそれからそれと見當をつけて、例の合圖の呼子を鳴らしながら搜索に出懸けることは、丁度迷子になつた愛兒を其の親が血眼になつて尋ね廻ると同様な状態が起るものだ。此場合失踪した鳩

が其音を聞きつけて彼方の森蔭此方の屋根裏から飛んできて、掌の餌に救を求めることが起るものだが、其準備になる。これは最初は何んだか莫迦氣た仕打ちのやうに思はれるが、怠つてはならぬ。

第三 餌を與へる時は矢鱈に舍内に投與することなく、鳩飼の傍に摺寄つて拾ふやうに漸次近く撒くこと。これは鳩飼に馴らさしめ、人に接することを怖れぬやうにする爲である。すべて餌で釣つてゐるのであるから、成るべく鳩の好むおいしい物を七分目位與へるが良い。満腹させると次回に影響して結果の良くないことがある。

第四 鳩舎の周圍では鳩の恐怖するやうな所作や音響を嚴禁すること。鳩は生來の臆病者である。恐怖の念を起させると不安を感じ、それが嵩じて家出することがある。色彩と共に注意すべきである。

以上第一より第四までの注意の下に新に仕入れた鳩を先づ鳩舎に馴らす、それには上手下手があるから一様にはいへないが、初手の人でも一週間位で要領を得る。尤も雛で殊に巢立したばかりの鳩なら文句はない。兎に角舎



内に棲ませると同時に、到着臺上から屋上へ網を張り、出入口の格子戸を開放して勝手に舎の内外を散歩し得るやうにしてやる。之は鳩をして舎内を知らしめると同時に鳩舎の位置や出入口、舎外の風光さては其附近は生息するに安全地帯である事を覚えさせる爲めである。此の網を使ふとは忘れてはならぬ。往々飼主は、最早飼うてから二箇月にもなるから鳩舎に馴れたらう、放つて見やうなどというて放たれるが、鳩にとつては甚だ迷惑千萬な次第である。實は鳩は舎内からは随分永い間舎外の風光を眺めて暮したであらうが、一旦到着臺に顔を突出すや、籠から出た鳥だもの、嬉しさの餘り急に飛び出したので、下界の様子殊に鳩舎の位置や出入口の分かる筈がない。思ふ存分空中を飛翔してイザ鳩舎に歸つて一休みしやうといふ段になつて鳩舎が見付からぬ始末、歸りたくも歸られないで空から空へと彷徨ひ飛んでゐるのである。飼主は此の迷へる鳩に一片の同情もなく、愛鳩を失うて悲歎にくれてゐるのである。

屋上の網は全く此の目的に外ならぬのであるから、最初一週間位は網内を散歩せしめ、餌時には例の合圖のベルなり口笛なりで鳩を舎内に呼入れ、御馳走を與へる。これを繰返すことによつて、鳩の舎内に飛入る習慣を養ひ得るのである。

斯くて適當な時を見計らひ、網を脱し、朝の餌を抜きにして夕食前に極く靜かに屋上散歩を許してやる。——餌は朝夕二回である此飼與回数のごときは後章に述べやう——此の時は努めて飛翔させてはならぬ。三四分の後合圖で舎内に呼入れ、夕餉の御馳走を與へる。つまり此の日の訓練は網のない屋上で散歩させることに止まる。翌朝は前日同様に日課を繰返し、夕刻は約半數位の鳩を出して靜かに舎外運動をさせる。矢張り四五分乃至十分の後呼込む。第三日は朝、夕都合二回全數の鳩をして舎外運動をなさしめる。最初一回は十分位、漸次二十分、三十分と運動時間を延長する。又最初一週間位は鳩舎附近の樹枝や屋上に下りることを許すも、以後は絶対に鳩舎の屋上に下降し、舎内で餌と水とを攝るやうに馴致すべきである。

前に舎外運動の第一日約半數を舎内に残したのは、舎外運動中のものゝ歸



舎吸引の爲めて、舎外運動に夕刻を選んだのは彼是する内に日没になり遠く高く飛翔し得ないやうにと、それから朝夕食を抜きにしたのは空腹で呼込みの合圖が耳に入り易からしめる爲めである。

以上の豫備訓練は本訓練に移つた後も絶えず實施して、飛翔力の練習に努めねばならぬのである。

## 第二節 本訓練

豫備訓練が卒へたなら漸次本訓練に移る。本訓練は古鳩は別として、雛鳩は養育の關係上早熟晩熟等によつて相違はあるが、先づ孵化後三箇月目位から訓練に取かゝるがよい。發育不順のものでも換羽期に入つて風切羽の第三枚目が脱落した頃からなら差支はない。但し移動鳩舎の鳩の訓練は巢立後勉めて早い方が成績が良い、次の場合は放鳩訓練をしてはならぬ。

- 一、病氣に罹つてゐる時。
- 二、古鳩であるか、又は何かの原因によつて配偶者を缺く時。是はいふま



(圖版第三十一)



鳩体名稱

- 1 頭
- 2 頸
- 3 後頸
- 4 眼
- 5 耳
- 6 鼻
- 7 嘴
- 8 頰
- 9 胸
- 10 肩
- 11 翼
- 12 肘
- 13 腕
- 14 爪
- 15 尾
- 16 尾
- 17 腰
- 18 腹
- 19 背
- 20 小羽



圖版第三(一)

でもなく愛しの配偶者を缺くものはツイ道草を食ふので訓練上不便である。

三、換羽が種々の原因によつて順調に行はれぬ時。

羽軸に節のあるもの小羽が卷縮してゐる者等は飛翔力に大なる影響がある。

四、風切羽の第九第十枚目が脱けてゐる時。これも前項同様飛翔能力を阻害し新羽の發育が面白くない。

五、産卵の前日及産卵後四日間。産前産後の飛翔は鳩體に一樣の不結果を招來する。

六、孵化後十日間。雛の抱温を忽にする慮れがある、舍外の訓練を禁ずるが宜い。

次の場合は放鳩に手加減を加へ注意を拂ふべきである。

一、天候險惡の時。例へば霧靄雨雪暴風は飛翔方向の判定を非常に困難ならしめるのである。

二、放鳩の時刻。放鳩の際は日没近くに歸巢するやうな時刻を避けねばならぬ。例へば東京大阪間は約百里一時間に十五里飛翔するものとして約



七時間を要する。故に朝八時に放つても到着は午後三時になる。日の永い夏はよいが、冬の日の短い時はもつと朝早く放つが良いといふ譯である。但移動訓練は鳩の峙を急ぐ夕刻を利用して仕込むのであるから、これは當嵌らぬ。

三、放鳩時の食餌及飲水。食餌はその飛行距離の遠近によつて増減し、飲水は飛行時間の長短に拘らず十分に給與すべきである。

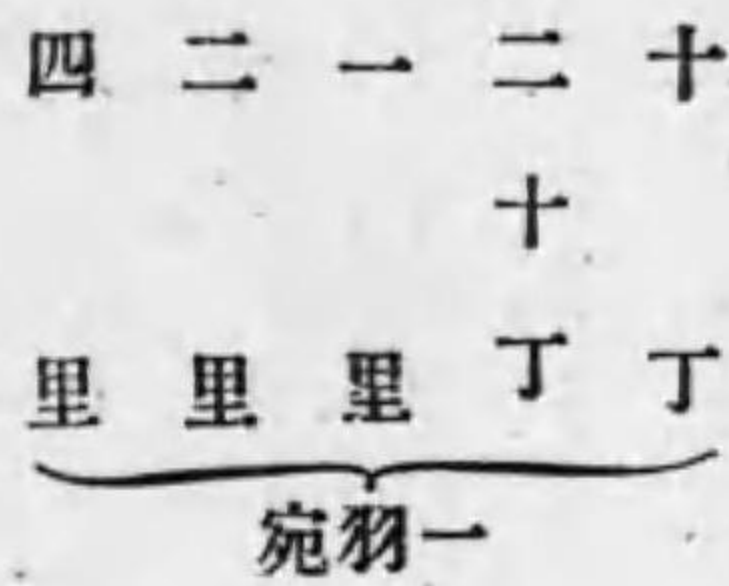
四、放鳩地の選擇。遮蔽物のない廣潤の地を選ぶべきで、これは飛翔状態を観察する上に必要である。又、大河川の直後を選んで可かぬ。何んとなれば河川の上空は概して氣流悪しく、上翔當初、方向の判定を誤る虞れがあるからである。

五、放鳩時の注意。各個放鳩の時は、前に放つた鳩が鳩舎の方向に飛去つたのを確めてから次の鳩を放つが良い。又、輸送用の容器が上空から見えぬやうに隠蔽する良い。次に飼鳩者は豫めの到着時刻を計り、鳩舎外に在つて呼込みの準備を整へて到着を待つべきで、首尾よく到着したなら直ちに呼込んでおもしろい御馳走を與へる。

第一 片道遠距通信の訓練

此の訓練は最も容易である。舎外運動によつて飛翔能力が増進したならば、鳩を鳩舎から約十町程もある地點に搬び行き、其の處から一羽宛順次に放ち、次で同距離の四方面から繰返して放ち、附近一帯の地形を熟知させる。そして最後に放つた方向は將來訓練飛翔を延伸しやうとする方面に宛て、以後は次の如く放鳩躍進距離を定め、且つ少くも各躍進の間には三日間位の休養を要する。これは其間雌雄の交情を温ため、家庭的の趣味を忘れしめぬ爲である。

放鳩躍進地と放鳩方法





八	里								
十二	里								
二十	里								
二十五	里								
三十八	里								
五十	里								
六十三	里								
百	里								
百二十五	里								
百五十	里								
百七十五	里								
二百	里								
宛羽五十 總てを一群として									

斯く訓練してゐる間に、漸次歸還能力の増進と可否とを検査することが出来る。そして劣等鳩は訓練に堪へずして喪失するから自然に淘汰法も行はれ

ることになる。そして此の訓練は體力に伴ふて行かねばならぬから、當歳の鳩には先づ二十五里を、二歳の鳩には七十五里を、各々最遠距離に限定し夫以上の古鳩は最大限の飛翔を要求するが適當である。

又一羽の鳩に各方面からの通信を擔任させても決して不可能ではない、十里や二十里なら朝飯前の仕事であるが、夫れ以上の距離に延伸すると、逐次方向判定に苦しむ結果、成績が低下する。

要するに此通信法は主として

1. 夫婦相愛の情を利用し
2. 餌を加減して操縦する

に出ない。——總て之から述べる色々な通信法は、多くの場合鳩の性慾と食慾とを利用し、其弱點に乗るのであるから、此兩慾を果して如何なる程度に鳩其ものが保有して居るかを承知しておく事は大切な事柄であらう。即ち場合によつては兩者を同時に利用する事もあれば、時には其一方に重きを置かねばならぬ事もあるからである。予の觀察は次の様である。



鳩の性慾は概ね食慾の二倍である。そして其性慾は雌雄共互に、外の見る目も羨ましい程であるが、殊に雌に於て其情は一層濃やかである。

實驗はかうであつた。八番の大正九年産鳩を四番宛二組に別け、更に一方は雌雄を別々にして、同一場所に準備した。同一型の三つの鳩舎に夫々に移し、そこで豫備訓練一通りを終へた後、同一日から絶食としつゝ、而も舎外運動は相變らず行ふた。但し四番の雌雄同棲者の方は朝に雄を、夕に雌をといふ風に運動時間を變換した處が、獨身者の雌雄は三日目に、又家庭を營む四番の方は五日目に何れも餌を漁る爲に失踪し、後刻満腹して歸舎した。此實驗は甚だ簡單で他の條件を加味したら勿論不完全ではあるが、大體から配遇者のある方は、舎内の吸引力により、饑を辛棒して、丁度獨身者の倍の日數を忍んだと判断を下したのである。序に書添えるが鳩の生命は激務に服しつゝ、三日間、靜止の状態なら多少年齢の新古により、いくら長短はあるが、先づ十五日乃至二十日は絶食をつゞけても生命を絶たぬものである。

又雌雄何れが其性慾が濃やかであるかと問はるれば、雌は雄に増さる事數

倍だとお答しやう。其實験は蕃殖の章で、雌雄交配の節に述べたから、こゝには略そう。

話はもとへ戻つて、即ち段々と距離を延して發信地に鳩を運んで放鳩するのであるが、以上の弱點に乗るのであるから、雄を使ふ時は雌は留守番、雌を使ふ時は雄は留守居に宛てながら、一方距離の遠近に應じ餌を加減して歸舎後満腹させるのである。

夫婦一所に放てば途中道草を喰はぬとも限らぬ。片道遠距離通信は普通の鳩でも三十里位は請合、優良種になると一日二百里は用を辨ずる。

又一地點に鳩を三十日間位留めおいて放しても差支なく歸へる。

## 第二 往復近距離通信の訓練

鳩の通信法は何れもその歸巢性を利用するものであるから、豫め鳩を發信地に携行して放たねばならぬ不便がある。然るに此の往復通信法は、鳩自ら其の鳩舎を出發して發信地に至り、更に任意に歸巢するやうに馴致するにある。此の訓練の基くころは、寢室鳩舎と食堂鳩舎とを通信しやうといふ兩地



點に分置し、鳩をして食事の爲めに食堂鳩舎に赴かしめ、食事が終れば寢室鳩舎に歸來し、其處で夫婦同棲し産卵もすれば育雛もやるといふ具合に仕込むのである。右様な原理に基き通信に利用するのであるから、其距離も餘り遠隔する譯には行かぬ、先づ一時間行程即ち十四五里位が手頃であらう。

其調教手段を簡単に述べると、先づ寢室鳩舎に通信に使用する鳩の雌雄を收容して、豫備訓練一通を終へさせたなら、そこで雌のみを其中から引き抜いて食堂鳩舎に移し、茲に馴致するのだ。そして豫備訓練を仕込んだ後、雄は食堂鳩舎に向ひ、雌は寢室鳩舎に向ひつゝ、逐次放鳩訓練を重ね、遂に雌は寢室鳩舎から、雄は食堂鳩舎から放つて、各其兩鳩舎に歸せしむるのである。此間食堂鳩舎の給養は極めて贅澤に且豊富に與へるが、併し其他の居心地は粗惡にする。之に反し寢室鳩舎の方は、食餌の給養は粗惡で殊に量に至ると貧弱であるが、小屋は居心地よく寢臺等も結構な構造と云ふ風に待遇するのである。

扱て訓練が右の様に進んだら再び雌を總て雄の鳩舎に運搬して、久し振に

夫婦同棲させると、彼等の間には分離中お互が受けた待遇に就ての物語があるものと想像されるから、適當な時期を見計らひ、朝夕絶食後一所に放つと、空中に舞ひ上つた瞬時に雌は昨日迄自分が受けた食堂鳩舎の好遇を想ひ起し、空腹のまに、誘はれた雄と共に食堂目掛けて飛び行くことになる。食堂では先程から待ち構えて居るとだから直に、おいしい餌を潤澤に與へる、満腹すれば勝手のよくない鳩舎よりも特に勝手の良い寢室鳩舎を想ふのは自然の心理であるから、茲に再び舍外運動に出された鳩は協議の上、寢室鳩舎に歸ることになる。翌日より同じ事を繰り返して往復通信を完成するのである。

以上の様な心理の應用は稍訓練に時日を要するが、簡単に成功し様とすればまだ、如何様なやり方もあらう。私は移動鳩舎の鳩で移動しつゝ、往復通信に成功した、而も四日の短時日であつたから書添えやう。夫れには孵化後二週間の雛を抱いてゐる雌雄を用ゐ、雛諸共に新しく往復させやうとする位置の鳩舎に移し、此處に雌雄を各別に放つ時は從來の鳩舎に戻るから舊鳩舎で充分餌を與へた後、自轉車で雛の居る鳩舎に送り届けること一日二回宛



四日間繰り返したら、其後は兩鳩舎間を往復する様になつた。勿論雛のある鳩舎では水及寢臺を與へるのみで餌は一切與へない。雛が成長すれば之も共々往復させることになる。更に往復通信の兩端を移動する爲には放鳩前先づ鳩舎を移動し、後放てば何等差支なく移動往復することになる。要するに此訓練の基く所は親子の愛情を利用したに過ぎない。理論は暫く措き此處には嘗て中野軍用鳩調査委員の手で訓練された同所と三宅坂陸軍省間の往復通信訓練實施表を記して参考としやう。尤も鳩は巢立した計りから十分なる豫備訓練が施された優良種三十七番である。

往復通信訓練實施表

日次	雄鳩(中野研究所寢室鳩舎)	雌鳩(陸軍省食堂鳩舎)
第一日	平常の通り舎外運動	鳩舎内に閉置
第二日	同右	同右

第三日	同右	同右絶食
第四日	午後三時鳩を籠に移し空車となす之は雌の逃し、雄の逃しを豫期したからである雌の逃しを豫期したからである雌の逃しを豫期したからである	朝晝絶食午後三時舎外運動に出したが未だ訓練不十分で野に逃歸した
第五日	同右	朝晝絶食午後三時舎外運動に出したが二十三羽中野に逃歸した
第六日	平常の通り舎外運動	鳩舎内に閉置
第七日	午前東方十丁の地點から同放鳩	朝晝絶食午後三時舎外運動に出したが暫くして呼び込むだが、績佳良
第八日	午後東方一里十丁の地點から各個放鳩逃歸つた雌六羽を陸軍省に還す	午前十一時午後三時舎外運動六羽中野に逃歸る
第九日	午前東方三里の陸地測量部から各個放鳩	正午及午後四時舎外運動呼び込みに應じ成績可良
第一〇日	平常の通り舎外運動	午前七時半及午後三時出舎
第一一日	午前陸地測量部から各個放鳩	同右



第二〇日	第一九日	第一八日	第一七日	第一六日	第一五日	第一四日	第一三日	第二日
午前九時一分出舎	午前九時四分出舎 午後四時半到着	午前九時半到着	午前十時二十三分全部の鳩を食室鳩舎に運搬す本日 より寢室鳩舎にては餌をへないこととした	同右	同右	同右	同右	平常の通り舎外運動
午前九時十三分到着	午前九時十三分到着 午後三時四十分出舎	雌雄共午前九時全部の鳩を出發させた(此後は雌雄 行動を共にす)	午前西方三里の中野から各個放鳩本日雌雄共に收容 した	午前西方二里から各個放鳩	平常の通り	午前西方半里の處から各個放鳩	平常の通り舎外運動	午前東南方五丁から各個放鳩

第二四日	第二三日	第二二日	第二一日
午前八時十分出舎 午後二時四十分到着	午前八時出舎 午後二時五十一分到着	午前八時十三分出舎 午後二時四十八分到着	午前九時四分到着 午後三時五十分出舎結果不良全部歸舎
午前八時三十分到着 午後二時三十分出舎	午前八時三十分到着 午後二時三十分出舎	午前八時二十三分到着 午後二時半出舎	午前八時四十五分出舎

第三 夜間通信の訓練

一 日没後の飛翔訓練薄暮訓練。放鳩地が鳩舎から遠ければ鳩は一日で歸舎することが出来ぬから、適當な泊所を見付けて夜を明かし、翌朝更に飛翔を続けねばならぬ。その不自由を避ける爲に、鳩に日没後の訓練を授けて置く必要がある。此訓練の基くところは他の渡り鳥や飼鳥と同様に、俗に謂ふ「感」で飛ばす様に馴らすに外ならぬのであるから、夜間に通信をしたいと企圖する地區を晝間に稽古させつゝ、一方では晝食後は鳩舎を暗くして暗に目



を馴らし、夕餉も舎内燈火の許に與へ、斯くして放鳩訓練は段々時刻を遅くして眞夜中に及ぼす様にするのである。本訓練には食餌は朝晝夕三度が工合がよいが、尤も二度でも差支はない。その教育方法は

朝 一時間の強制舎外運動

正午 一里乃至一里半の各個放鳩訓練

夕 三十分間の薄暮舎外運動

右の日課を繰返すのであるが、晝の各個放鳩訓練から歸つたなら、其の後は薄暮の舎外運動迄は鳩舎を薄暗くして幽閉する。そして薄暮の舎外運動に鳩を出す方法は、毎朝の出舎方法と同一で鳩の自由意思に委かすが、中には出舎を躊躇するもの、拒否するものもあるが、斯くの如く拒否したり躊躇したりする鳩は静かに押し出さねばなぬ。誤つて亂暴な真似でもしたら多くは失喪する。何故かといふに鳩は恐怖しつゝ飛び出した儘、無暗矢鱈に舞ひ上るからである。扱て全部鳩は舎外に出たが萬一飛翔を嫌ふものがあれば、初日は静かに屋上に放置して無理に飛ばしめぬ。翌日夕景には又前日同様な仕

事を繰返すが、若し不相變出舎を嫌ひ又は飛翔せぬものがある時は静かに飛翔を強制する。その強制方法は先づ鳩舎の屋根の一侧に追込み、續いて止むを得ず飛ばねばならぬやうに迫立てるのである。斯くすれば恐怖心に克ち得て飛翔する。右様にしても尙恐怖心が強くて舎外に出もせず飛びもせぬものは、翌日また同一方法を執らねばならぬ。

薄暮飛翔時間は日没時間によつて變化するものであるから、参考に大正十一年東京市附近の日没時刻を記そう。尙ほ此の訓練は外氣の狀況が飛翔を許さぬ時の外は毎日繼續すべきである。

大正十一年東京市附近の日没時刻表

自一日	自九日	自一八日	自二七日
一月 四時三十八分	四、四五	四、五三	五、三三
二月 五、〇八	五、一六	五、二五	五、三一
三月 五、三五	五、四三	五、四九	五、五五
四月 六、〇二	六、〇八	六、一四	六、二一



五月	六、二七	六、三三	六、三九	六、四五
六月	六、五一	六、五五	六、五八	七、〇〇
七月	七、〇一	六、五九	六、五七	六、五二
八月	六、四六	六、三八	六、三〇	六、二一
九月	六、一〇	五、五八	五、四八	五、三七
一〇月	五、二六	五、一五	五、〇六	四、五六
二月	四、四七	四、四〇	四、三四	四、三〇
三月	四、二八	四、二八	四、二九	四、三二

將來夜間飛翔の鳩を仕立てる爲めには、薄暮舎外運動間能くその能力を調べなければならぬが、此の訓練は強がち夜間通信鳩を訓練する爲めの準備であるばかりでなく、夕景に飛翔する能力が附けられる丈でも誠に重寶である。

二、夜間の訓練 最近戦役中の實驗によれば、具合良く訓練を施せば鳩は夜間にも通信勤務に服し得るものであることが證據立られた。事實は大正五年佛軍第一線に配置せられた十五の鳩舎で研究に着手し、同七年には完成

された。そして此の經驗より得た事實は次の様である。

第一 優良種の鳩は漸進的に訓練すれば總て薄暮飛翔は出来る者である。  
 第二 優良種の鳩は漸進的に薄暮飛翔を重ねれば、夜間でも通信は差支へない様になる。特に暗夜でも月明の夜よりも良好に鳩舎に歸することは驚くべき現象である。

(予の實驗によれば、月明の夜でも星夜でも其飛翔成績は良好であつたが、暗黒の夜は請合とは保し難かつた。將來更に此實驗を重ねて見やう。)

第三 羽色及眼色と夜間飛翔の能力とは何等關係がない。

第四 良好なる季節(四月十月末)は夜間飛翔の訓練に都合が良い候である。

第五 鳩舎外の發光信號は、夜間飛翔より歸來する鳩の爲には必要でない。

第六 鳩舎内での照明は鳩の歸還に對して必要である。

以上の外、予の實驗の結果を附け加ふれば次の様である。

一、一般の歸巢性は雌雄異ならないが、眞に困難な而も勞多い夜間の飛翔は確かに雄は雌に優つてゐる。



二、降雨は勿論空氣の濕潤して居る場合は、晝間の飛翔でも障碍であるが、夜間の飛翔では殊にその障碍が著しく、成績不良の最大原因をなす。

三、能く訓練された鳩の飛翔速度は晝夜の差異なく、分速十四、五丁から半里に達する。

四、失踪や落伍した鳩と、その配偶の有無は何等關係がなく、能力の優劣が主因をなして居る。

三、夜間鳩舎の構造 普通の鳩舎と大した違はないが、二個の白色アセチリンランプを舎内にお互の火尖が交叉して蔭影を生じないやうに配置する。又出口は普通鳩舎より擴大し、澤山の鳩でも一所に出られる様に大形に構へるのである。此の出口が小さいと鳩がぼつ／＼出舎する爲め、従て集團して舞ひ上る事が六ヶ敷いといふ害がある、夜間飛翔には集團がよい。又鳩舎周囲の窓には日覆を附し、不必要な時は巻き上げて置いて、大雨とか暴風の時の防護用に供し、又は午後の休憩時には下げて舎内を薄暗くする。到着臺も普通のものよりも稍々取擴げて設けるがよい。

四、食餌の與へ方 一日の量とその配合は普通の鳩と同様である。即ち一羽一日に八匁乃至十匁で結構である。此の日量は二等分にして一部は更に二分し一は朝の舎外運動後、殘部は十時又は十一時半の放鳩訓練後に與へ、殘餘(日量の二分の一は人工的燈火の下に薄暮又は夜間訓練終了後に與へる。要するに

朝	舎外運動後	二匁半
晝	放鳩訓練後	二匁半
夜	舎外運動後	四匁強

夜食餌分配後、鳩が十分飲水したなら消燈せねばならぬが、尙日量以外に餘分な食餌を巢房に與へる良い。雛を育てる時は殊に増量するを要する。

五、訓練豫定表 夜間飛翔用鳩舎は高臺で、附近に電線や樹木の如き飛翔を妨害する物のない地點に設くべきである。薄暮訓練を終つた鳩は次の訓練に移る。



第一日より第十六日までには新位置に於ける鳩舎に馴致と晝間一里からの放鳩訓練

第十七日より第三十二日までには

(一)朝日の出から一時間の舎外運動 (二)午前十時から各個放鳩之は將來夜間通信をしやうと決定した方向に四里の遠距離にまで訓練。(三)日没から三十分薄暮の舎外運動

第三十三日より第四十八日までには(一)朝日の出から一時間の強制舎外運動 (二)午前は隔日に鳩舎内で休憩と晝間訓練した方向で一里の處から放鳩するが、將來此の地は夜間飛翔を希圖した位置である。(三)午後は窓に日覆を下し全部休憩 (四)隔日に日没後三十分から約三十分薄暮の舎外運動(自由飛翔) 残りの隔日は日没後一時間から午前行つた放鳩位置から各個放鳩を一里まで行く。

第四十九日より第六十四日まで (一)朝は日出時から一時間の強制舎外運動 (二)午前隔日に鳩舎内で自由開放、残りの隔日は四里乃至五里で將來夜間放

鳩地點と希圖した處から各個放鳩 (三)午後は窓に日覆を下して絶対休憩

(四)夕方隔日に日没後一時間から三十分薄暮の舎外運動、残り隔日は日没後一時間半から午前の放鳩地より各個放鳩

#### 第四 移動通信の訓練

移動訓練とは隨意の地點に於ける片道通信の訓練である。此訓練の基くところは別に六ヶ敷い心理の應用ではない、巢立したばかりの鳩を移動鳩舎に移し若小の時代から鳩をして自分の小屋は常に移動するものだと謂ふ觀念を與へさへすれば良いのである。已に鳩舎に馴致された鳩は、先づ信地で方向變換並に移動距離——四五間乃至十丁——の追加を行ひ彼は一箇月で終了するものである。此の移動教育を卒へた鳩は其の後、生地に携行する時は鳩舎馴致の爲めに一時間乃至四日を、爾後訓練距離の大小、天候季節及び附近の地形の如何によつて一定しないが、大概四五日間の準備放鳩演習をやれば、十五里以内の處なら思ふがまゝに用を辯じ得るものである。次に其の訓練實施の一例を述べやう。







移動鳩車訓練豫定表

日次	第一法				第二法			
	日動移	日一第	日二第	日三第	日動移	日一第	日二第	日三第
午前	天明後強制飛行此間鳩車の掃除 飼與(三隻)	天明後自由飛行。掃除 飼與	天明後強制飛行 飼與	右に同じ	天明後強制飛行。掃除 飼與(三隻)	自由飛行。掃除 自由飛行一時間後自由飛行中の中經の距離より放鳩	強制飛行。掃除 強制飛行一時間後第一日の二倍距離より放鳩	強制飛行。掃除。飼與 強制飛行一時間後第二日の二倍の距離より放鳩
午後	二十町移動及掃除、飼與(二隻) 鳩車の設置時一時間後に自由飛行 飼與(四隻)	午前自由飛行中の中經の距離より放鳩 飼與	第一日午後の二倍の距離より放鳩 飼與	放鳩演習の補足	一里移動及掃除飼與(二隻) 鳩車設置一時間後に自由飛行 飼與(四隻)	強制飛行、掃除、飼與	強制飛行、掃除、飼與	強制飛行、掃除、飼與

考備	第三法							第四法
	日六第	日五第	日四第	日三第	日二第	日一第	日動移	日四第
一、第一、第二、第三法の順序に行ふも、或は其成績に依つては同一方法を反覆して訓練を重ねる。 二、放鳩演習の補足は不良鳩を良鳩に加へて放鳩演習を行ふのである。 三、新位置到着後第二回の飛行は強制してはならぬが、第三回以降は天候の如何に不拘強制飛行させるがよい。	強制飛行、掃除 放鳩演習補足、飼與	強制飛行、掃除、飼與 放鳩演習、第四日の二倍の距離より	強制飛行。掃除 飼與	強制飛行。掃除。飼與 強制飛行一時間後第二日の二倍の距離より放鳩	強制飛行。掃除、飼與	自由飛行。掃除 放鳩演習自由飛行一時間後自由飛行中の中經の距離より放鳩	天明後強制飛行。掃除 飼與(三隻)	強制飛行、掃除 強制飛行一時間後第三日の二倍の距離より放鳩
	強制飛行、掃除、飼與	強制飛行、掃除、飼與	放鳩演習第三日の二倍の距離より	強制飛行掃除飼與	放鳩演習第一日の二倍の距離より	強制飛行掃除飼與	二里移動及掃除、飼與(二隻) 鳩車設置一時間後に自由飛行、飼與(四隻)	強制飛行、掃除 放鳩演習の補足

此豫定を一瞥せられたら誰でもは從來の訓練のやり口即ち一日三回實施



の練習特に朝の教育に重きを置くこと及び一日三回飼與したことに對し著しい相違の點を發見せられやう。之は外でも無い總て動物の訓練は勉めて其心身の爽快な朝が最好適であらうが而し乍ら鳩の訓練は飼主の手許を離れ、ほんとの架空調教であるから大いに夫等と趣を異にし其失踪を顧慮せねばならぬ。それで日光の餘影充分な朝より寧ろ日没に近い夕刻が良いのは鳥の癖を急ぐ其心理に乗ずるに外ならぬのである。又餌も一度嗟囊に納まつたら通常約十時間—育雛期は約五時間—は貯藏されて居るから其間は左程餓を覺えない、餌で繰繰するには空腹の方が得策である。従つて三食より二食主義を採る所以である。野生の鳥でも雀や鳥は別として多くの鳥は朝、里近く餌を漁つたら人目にふれぬ先に、安全地帯に逃れ、夕刻から再び出て來るのが常である。之亦二食主義ではないか。而も使鳩者側から云へば三度より二度の方が手数がはぶける。夜間訓練の如き特別の外は此方が勝だ。要するに訓練と飼與とを何れも二度にして大切な進度は夕刻に施し、朝はほんの復習に止める。場合によつては夕一度でも差支ないと思ふ。

## 第七章 傳書鳩の蕃殖

### 第一節 蕃殖の意義

茲にいふ蕃殖とは雌雄の交配に依り單に種族を増殖するといふに止まらず、人爲的に改良して出來るだけ其の缺點を除くと共に、優良なる性質を益々向上持續せしめ、傳書鳩として優秀なる性能を有せしめるといふ大なる目的に歸着するのである。これが爲めには種類の選擇に意を用ゆると共に、遺傳の法則を巧に應用して確實有效なる成績を擧げることにも努めなければならぬ。

「類は類を生む」といふことは遺傳法則中の最も重要なもので、又何人も認める所の事實である。即ち子は親に肖るといふことは争はれない事實であるが、時には外貌といひ性質といひ兩親にも兄弟にも似ない子のあるのも事實である。又同じ肖るにしても父に似てゐるのもあれば母に似てゐるのもあ



り、又父母の何れにも似ないで祖父若くは祖母に似てゐるのがある。前に述べた似ても似つかぬ親子の中には、實は遠い祖先に似てゐるのがあるに相違ない。

翻つて見るに、子が毎々親に似て居るならば遺傳といふことは餘り面倒な問題ではないと同時に、種族の改良といふことも覺束ない企圖といはなければならぬ。ところが、將門將を出すといふことが事實であると同時に、王侯將相何ぞ種あらんやといふ支那人の古い言ひ草も俄に以て否定し難い。即ち多くの子の中には兩親にも兄弟にも似ない傑物があるといふ事實が、とりも直さず生物進化の歴史を物語るもので、又改良蕃殖上乘すべき點である。

尙具體的例を擧げるならば、通常單冠の鶏からは單冠の子を生じ、複冠の鶏からは複冠の子が生ずる。即ち類は類を生むといふ原則に當てはまる。然るに單冠と複冠とを交配すると複冠ばかりの子が生ずる。即ち父母何れかの有する單冠といふ形質は全然消失したかの觀がある。ところで此の一回雜種たる複冠の雌雄を交配すると複冠の子も出來るが、さりとて複冠ばかり

りではなく單冠も出來る。そして其の數の割合は複冠三に對して單冠一といふことに略々なつてゐる。即ち父母の何れにもなくして祖父母の何れかにある形質が發現したのである。此の場合複冠を優性、單冠を劣性といふてゐる。然るに此の全數の四分の三を占むる複冠の子は何うかといふと、三分の一だけは純粹に複冠を遺傳し、残りの三分の二は恰も最初の交雜の結果と同様で、其の子には單冠の純粹と複冠の純粹と單、複混合のものとを生じて行くのである。此の關係を永い間持續して實行して見ると、大體に於て單冠と複冠とは殆ど同數となるのである。即ち雌と雄とを配合すれば何れも同一程度に遺傳質を持ち行くことになるのである。

以上の例は最も簡單に唯二つの形質に就いての遺傳であるが、三つ以上數多の因子が這入つて來るとそれだけ關係が複雑になり、時々思ひ付かぬ様な形質が現はれて來るのである。以上述べた所を概括すれば(一)天體に於て子は親に似るものである、(二)同じ親から多數の子が生れる場合に其中には變つた形質のものが出來るといふことが言はれる。是等の事を土臺として改良



蕃殖が成り立つのである。

傳書鳩

九八

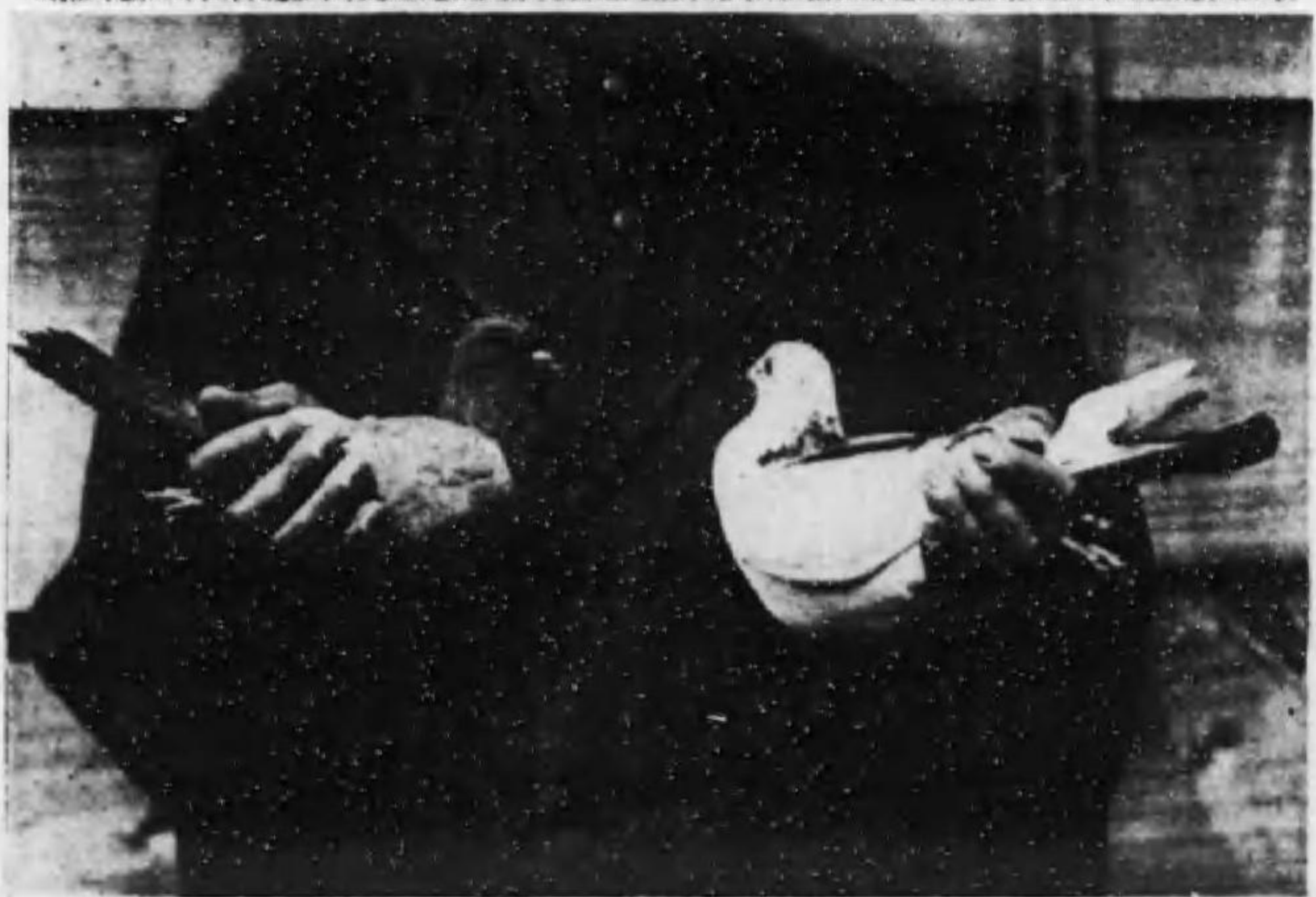
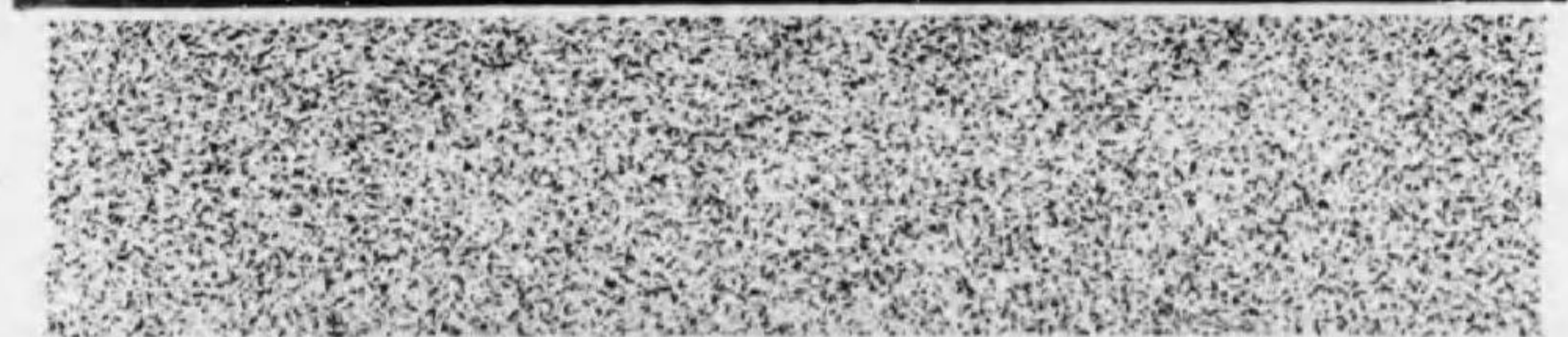
## 第二節 雌雄の別

孵化後一ヶ月位に於ては雌雄の鑑別は容易でない。親鳩が孵化する一雙の雛は時には雌雄一方に偏する事は無いが通常雌雄であつて、雄は形が大きく頭頸稍々太く且つ圓味が有り鳴聲も亦高く舉動も活潑で、其の巢に近づくと頭を扛け嘴にて啄く様子を示し、「グー」といふ音を發する。雌は體格が小さく頭は扁平で雄に比べると柔弱の觀があるとはいふものゝ、確實に之を判別する事は甚だ困難であつて、寧ろ其の性的發動を觀察するに越したとはない。先に傳書鳩の表情の章で述べた通り此處彼處に雌を逐うて之に隨ひ、或は媚を呈し、鳴聲を發するに際し其の體を前後左右に回轉して半圓形を描き雌に權威を示すに至る、之は雄の表情である。併し中には雌にも變り者があつて雄の如き形態を有し、雄の如く振舞ふものがあるので欺かれることがないでもない。産卵するか否かを見れば雌雄の判別は確然として疑ふ

(鳩書傳)雄は左雌は右て向



(圖版第三三)



鳩堂は左鳩書傳は右て向



餘地はなくなるのは勿論である。

参考の爲親鳩の産む二つづゝの卵が、どう謂ふ工合に雌雄として生ひ立つかと謂ふ實驗の結果を左に示そう。夫は大正十年産の雛に就ての一部の調査である。

試験卵數 (一六〇) (八〇雙の卵)	上記より生れた雌雄別			各雙の雛が雌雄一方に偏し又は 兩性を生じた回数
	兩性	雌	雄	
		七五	八五羽	
				一六回
				一一
				五三

### 第三節 雌雄の選擇

鳩には一雌一雄にして其の自然に任ずる時は孵化後五六ヶ月を経れば雌雄群がつて互に配偶者を選択し家庭を営み、雛を擧ぐれば琴瑟相和し、生別若くは死別の悲運に遭遇せざる限り其の關係終生變らぬものである。此の事



は飼養上極めて便利であつて、一鳩の舎内に多數を收容し、而も決して相交雜する虞なく、且つ鳩舎内の平和を維持することが出来るのである。

偕て人爲的に配偶を定める、換言すれば蕃殖を目的として雌雄を選択するには、放鳩訓練の成績が最も大切で夫に年齢を顧慮しなければならぬ。從來の經驗に徴すると、蕃殖用として適する年齢は二歳から五歳までの間であつて、六歳以上の老鳩より生れた仔は發育が遅く弱々しい。併し此の鳩は飛翔速度が小で持久力が大である。又反對に二歳以下の鳩から生れたものは早熟の傾があり、飛翔速度が大で持久力に乏しい。故に幼齡又は老齡のものを、用ゆるの已むなき場合は、老幼を適當に配合するの必要がある。又久しく蕃殖用に使用すると種族の劣退を招來するに至る。

第二に蕃殖用鳩は身體強健にして精力旺盛なるものを選択しなければならぬ。此の點から言ふと、假令血統は優秀でも個體として缺點を有するものは之を排斥する。

併しながら體が大きくて重いのが必ずしも強健とは言はれない。大き過

ぎるのは反つて缺陷の潜在を示すものである。そこで過大でもなく過小でもなく、中庸を得たものが宜しいといふことになる。之を體量でいふならば百十匁乃至百十五匁位が中位である。

第三には毛色の選擇を要する。一般にいふと羽色の濃厚なものは淡色のものより優良である、即ち黒鱗狀及び淡紅色のものは淡褐色のものと交配せしむるがよい。白色を混ずるものは其の然らざるものと交配して白色を減ずるのがよい。淡い空色のものは赤と交配するのがよい。淡色の羽は概して弱く、冬季に於て大羽の先端を毀損する處がある。

鳩は種類に因つて羽毛の多いのと少いのとある。是等は互に交配するの要がある。又雄に多く見る淡色の羽であつて黒若しくは鼠色の斑點を有するものがある、この斑點は強健の特徴として目されてゐる。雌には黄斑はあ  
るが黒斑は少い。

又鳩には一見して翼の強健なもの一寸見た所では弱々しいが、實際は強健なるものがある、何れも優良の部類に入るべきものである。



佛國傳書鳩の祖である白耳義種鳩は、鼻瘤大、眼環海綿狀を呈し、尾長く、喙囊大であつたが改良の結果今日は全く原形を止めないやうになつた。しかし原始的鳩必ずしも劣等なのではない、中には傳書鳩として優秀なものもある。但し雌雄の撰擇に當つては粗大なもの同志を交配させることは避けねばならぬ。實際の場合は長翼のものと短翼のものと、又眼の色の淡いものと濃いものとを交配することになつて居る。

#### 第四節 雌雄の交配

雌雄の撰擇は其年の放鳩訓練の成績や其他により毎年十二月末迄には終らぬばならぬ。そうして先づ配合の準備として一月中頃限り雌雄席を改め別居させ相互の姿が見えぬやうにする。運動も雄を朝にすれば雌は夕にやると云ふ具合にするのだ。併しながら夫が出来ねば雌は毎日やらせるが雌は一週一回位に止めても差支はない、其間に相互の精力を準備し英氣を涵養せしめるのである。此方法は、あながち鳩ばかりではない山鶏や金雞等もか

うすれば成績が良いものだ。そして鳩は又從來の夫婦關係を忘れ、吾人飼養者が希望する新たな結婚の媒介に泣寝入ながら満足するのである。從來の經驗から雌雄分離間の舍外運動は雄は朝に雌は夕が適當である、之を反對にして雌を朝に出すと夫を思ふの情の濃やかさは終日入舍せず夕刻を待つものがある、注意すべきである。斯くして二月下旬の候から三月上旬にかけて鳩連名簿を調製し飼主の希望する一番宛夫々番號を附けた巢房に配當する。巢房内には水盤を置く。水盤の水は少くも一日二回出來得るなら屢々取換へてやるが良い。そして鳩飼は巢房内で雌雄が和合して居るかどうか、雄が雌を嫌ひ嘴で啄き虐待するやうな事がないか等を心して觀察する。多くの場合は配合後三十分位で互に和合し同棲を承認せる状態が認められる。此際若し雌雄互に離れて親和の模様が見えなからば、放つて置けば喧嘩を始める。事の起らぬ先に早く雌を巢房より出し二三時間雄の態度を觀察し、沈靜になつたときに再び雌を同棲させる。通常巢房から一時はづすのは雌が良いが、併しながら又雄を引出して徴戒的に暗黒の場所に幽閉し、又は水



に浸し夜間に及び穩密に舊のやうに巢房内に入れ、翌朝互に顔を合はせた方が良い事もあるが、要は飼主が觀察した彼等の素振により判斷して適當な所置を執るより外はない。斯様な風に手を換へ品をかへて反復し必ず最初に定めた配偶を成立させることが肝要で、雄をして恣に雌を撰擇させることは禁物である。之と同時に巢房も亦定められたものに居着かせて、勝手に他の巢房を窺がはせてはならぬ。さもなければ鳩舎内の平和は攪亂され、雌雄の配合も不成立に終つて仕舞ふ。

雌雄を巢房に收容した後通常二日を經過すれば夫婦の關係が成立して互に親和の狀を呈するやうになる。此の時期に至れば巢房の戸を開いて自由を與へてもよろしい。此場合若し同時に多くの巢房を開放しようとするには羽色の同じものは避けなければならぬ。何故なれば巢房を取違へた際に發見に苦しみ、之が爲に時ならぬ争鬭を惹起することがあるからである。之に就ては觀察を十分綿密にして開放すべき巢房を決定しなければならぬ。

又雌は雄に比べて巢房に馴れ易いから、雄鳩が從來所有して居る巢房を與

へて置くと、戸を開いて自由を與ふるにも割合に取扱ひ易いのである。

### 第五節 産卵

交尾の時期は四季何時でもよいのであるが、七八月の飛翔競争時に於ける換羽を豫防し、且つ此の時期に於て體力を減損させない爲に、過早に配合させることは避けねばならぬ。夫は過早に仔鳩を育てると親鳩の體力が弱り且第二回の産卵を急ぎ益々體力を損するからである。又寒い時季は抱卵に適せないばかりでなく、仔鳩は數日後親鳩の保護を離れると寒氣の爲めに死んでしまふ。之は全く過早の孵化に原因するのである。野鳩は三月頃から産卵を始める。之が自然の蕃殖時期である。此の準備として配合前約十日頃から亞麻の實を少し多く與へ次で下劑を與へる。配合が成立つと雌雄協同して巢房内の巢皿に藁屑又は羽毛等を啄み來つて巢を營むに餘念がない。産卵に先ち雌は元氣がなく羽を下げて病苦に悩むの狀を呈し、巢内に引籠る。かくして二三日を経て第一卵を産み、其の後は卵の冷えるのを案じてか容易



に其の場を去らぬ。假令離れても極く僅かの間である。第一回の産卵後一日を隔て、第二卵を産む。それから後は雌雄共同して抱卵に従事する。通常午前九時頃から午後三時頃迄は雄が抱卵をなし、其の後雌が代るけれども抱卵の交代時間は勿論一定して居るわけのものではない。今述べたやうに鳩の産卵は通常二個で、雌鳩が若過ぎるか又は體格に缺點のある場合には一個しか産まぬ。第一期の産卵のみならず第二期に於ても一個しか産まぬときは此の如き雌は蕃殖用に不適當のものと斷定すべきである。又場合により雌鳩の産卵器官に異常があつて産卵不可能のことがある。之は産道の内壁に一種の附著物を生じ、卵の通過を妨げるので、若し其儘に放つて置く時は死に到る。斯の如き場合には極めて慎重に注意を拂ひながら胸と卵の間を靜に按壓して産卵の手傳をしてやらなければならぬ。此の際誤つて産道内で卵を破潰するときは殺して仕舞ふ。此の助産を施すに先ち肛門に脂油を塗布して産卵を容易にしてやる必要がある。又時として軟卵を産むことがある。之は僅かに薄膜により被はるゝのみで、有精卵にした所で孵化させる

ことは出来ない。次の場合に軟卵を産む。

一 輸卵管に於ける分泌腺より石灰の分泌がない場合

二 分泌腺の分泌が脂肪過多又は炎症の爲に妨げられた場合

(二)の場合には全く産卵に適せないが、(一)の場合には小石、鹽類又は牡蠣末を與へてこれを避けることが出来る。

次に蕃殖上最も重大なる缺點は無精卵を産むことである。之は交接器管の不適合の爲めに受精しないのであるから、已むを得ず配合を解き雌雄夫々の別の配偶者を與へなければならぬ。雄は元來雌に比べて早く蕃殖能力を失ひ易いから、無精卵を産む原因は雄の缺陷に存することが多い。若い雄に老いた雌を配合すると有精卵を産むが、反對に若い雌に老いた雄を配合すると無精卵を産むことが多い。

## 第六節 孵化

抱卵は前記の如く雌雄交代して晝間は主として雄之を抱き、夜間は雌が温



め殆んど規則正しく之を行ふ、そして雌が抱卵して居る間は雄は飲水や食物を齎して雌を養うて居る。斯くて通常産卵後四百二十時間目に孵化する。抱卵後第十七日に至ると雛は未だ卵殻を離れないが、頭は既に自由を得、嘴を以て殻をコツ／＼啄く。此の際雛の力が弱いと殻は容易に破れないから五十錢銀貨の外縁のギザギザで左圖の點線附近に筋をつけ、巢皿の中に置く時は二三時間後には雛が自然に脱殻する。

但し此場合銀貨で卵殻を破らぬ様に注意しなければならぬ。

若し卵殻を割ると往々雛を傷け死に致すことがある。

尤も此心配は孵化の前日と前々日との二回に濡れ手拭で拭ふてやる事に依り大方は豫防し得るものである。

既に雛が乾燥した殻を巢皿の中に残して生れ出ると、吸氣をなし、僅かに頭を左右に動かし得るに過ぎない。此の時雛は通常極めて疎らに細長い纖毛を被り、その毛根より將來羽毛を發生するのである。雛は一週間位で眼を開き、二十日経てば巢を出て食を求めらる。

生れたばかりの雛には手を觸れぬやうに注意すべきで、若し雛を抱ける親を他に移して雛に手を觸れると、親鳩は巢を去つて歸らず、雛は寒冷に生を失ふ。併しながら巢の中を點検することは必要である。時に雛が何時の間にか巢の中で死んでゐることがある。雛の死を看過して其儘に放つて置くと親鳩は乳腺炎(ラドール)に罹るから、之を豫防する爲めに他から雛を持つて來て授けることが必要である。

仔鳩の極幼少の間は一週少くも一回巢皿を掃除し、寄生蟲の豫防にクレジール粉末を巢房及び巢皿に撒布するがよい。尙寄生蟲は皿の下に隠れることが多いから、巢皿の下にタールを塗つても効果がある。又時に羽箒で巢皿の内外を箒き取れば寄生蟲を驅除するに妙である。巢房の内に細砂を入れて置くと、糞の掃除に便利であつて、且つ濕氣を吸取させるに都合がよい。巢房の掃除は毎日之を行ひ、掃除の際は靜かに仔鳩を他房に移し、決して仔鳩をいぢり廻してはならぬ。

孵化後數日にして仔鳩は巢皿の縁から外に脱糞するやうになる。これか



ら後は仔鳩を極めて靜に巢皿に置かねばならぬ、さもなければ仔鳩は自然外に出て下に落ち、死なぬいまでも親鳩の爲めに傷けられる處がある。

仔鳩には七日目か八日目に其の左右脚に鳩名を刻んだアルミ製の環を嵌める。爾後は此の仔鳩を仔細に觀察して脚環の脱脚するや否やを觀察する、若し落したのを知らずに二日を経過すると脚環を装することは不可能となる。

巢皿に子鳩を落付かせる爲めには巢は明る過ぎるよりは寧ろ薄暗い方がよい。何故なれば仔鳩は恐怖心が強く、再び歸り來る力を得る迄は巢皿を離れることがないからである。雛の孵化した當座は常に變事のないやうに注意を怠つてはならぬ。食餌の爲めに外出した時に十分點檢し、仔鳩の死を見付けたなら早速他から持つて來て親鳩に授ける。之には死んだ仔鳩より數日早く生れた者で差支ない、二三日早いものは夫れだけ長く親鳩の養育を受けることになり有利である。又親鳩に取つては仔を養ふ爲めに乳糜を吸収られるので生理状態に變狀を來すことなく、消化機障害を未然に防ぎ得て一

舉兩得である。抑も乳糜といふのは鳩の嗦囊から分泌せられる乳汁様の軟食餌で、丁度哺乳動物の乳汁分泌に類し、他の家禽に見ることの出來ない現象であるから少し詳細に述べやう。扱て一般鳥類の嗦囊は食物の貯藏所であつて食後直に其胸部を撫で、見ると食物貯藏の状態は外部から明かに知ることが出来るものである。鳩に就いても其育雛時期以外に於ては勿論他の鳥類のそれと同じく其内壁の成立を檢すれば無数の細胞が幾重にも重り合つて恰ど石垣を積み上げた様な狀を呈して居るが、育雛時期に至ると他の鳥と異なり此の細胞内に特異の變化を生じて來る。先づ各細胞の内容には著しく脂肪が生じ之を顯微鏡で見ると大小様々の球狀をなして原形質の中に浮いてゐるのが判かる。かくして脂肪の増加した細胞は漸次に生活力を失ひ遂には表面の部分から嗦囊の内部に向つて剝落する、之れは學術上、脂肪退化と稱されてゐる。脂肪退化を爲して剝げ落ちた無数の細胞は次には食道を通つて口に出で雛の口に移される、俗に鳩の乳と呼ばれて居るのは即ち之である。



雛は孵化してから八日間は天然の穀物を其儘攝取することが出来ぬ。従つて親鳩は乳糜を分泌して雛を養ふことになるのである。此の物質は雛の成長に伴ひ漸次濃厚となり、三日位経つと穀類草實を混じて養ひ次第に之の量が増加し、終に夫ばかりで十分になると乳糜の分泌も従つて止むのである。萬一此の期間に於て仔鳩を失ふときは、乳糜は嚙嚢内に停滞して變化し、爲めに生理的變調を招來し嚙嚢の炎症を發するに至るものである。

シヤプエー、ド、ヅエルヴィエー氏の説に依れば乳糜は孵化に先つと數日前に分泌される。故に飼養者は孵化の前日検卵を行ふ必要がある。此の際卵が不良なりと認めたらば爾後親鳩の健康状態に注意し、特別の食餌を與へねばならぬさうである。

ラペール、ド、ロ、氏も略同様な觀察の下に、若し孵化二三日前に卵を取り除くときは親鳩の乳糜分泌腺は閉塞されるといふてゐる。

白耳義の一著者は抱卵の末期に於て乳糜は分泌されると云ひ、他の者は雛が卵殻より出る時から分泌されると云ふ。之が事實らしい。



水浴 (於和平紀念東京博覽會場)



乳糜の分泌と抱卵の時日とは關係はない。何となれば十七日以上不良卵を抱かしても親鳩に何等障害を起さない、又十五日間他の親鳩に抱卵された卵を、僅に八日間抱卵した親鳩に移しても何等の害を認めない。即ち糜乳は仔鳩の孵化直後に分泌されるもので、僅かに十二日乃至十五日間抱卵した親鳩に雛を預けても、能く之を養育するのである。此の數例に依つて見ると、十七日間の抱卵は乳糜の分泌には毫も必要ではない。故に次の事を言ひ得る。

一、無精卵を抱卵させても危険はない。

二、雛が啄打を始めてから孵化せずに終つた場合は、秘密に他から雛を持て来て親鳩に與ふるがよい。之は夜間靜に行へば困難ではない。

三、雛が嘴で卵殻を突き始めたならば決して親鳩を他に移してはならぬ。雛が巢にある間は雌雄の判別が比較的容易で、雄は雌に比して一般に強健で、其の巢に近づくときは頭を擡げ嘴にて啄かんとする状をなし、「クツク」と云ふ啄音を聞く。

爾後、性的本能の發現を見るまでは雌雄の鑑別は甚だ困難である。

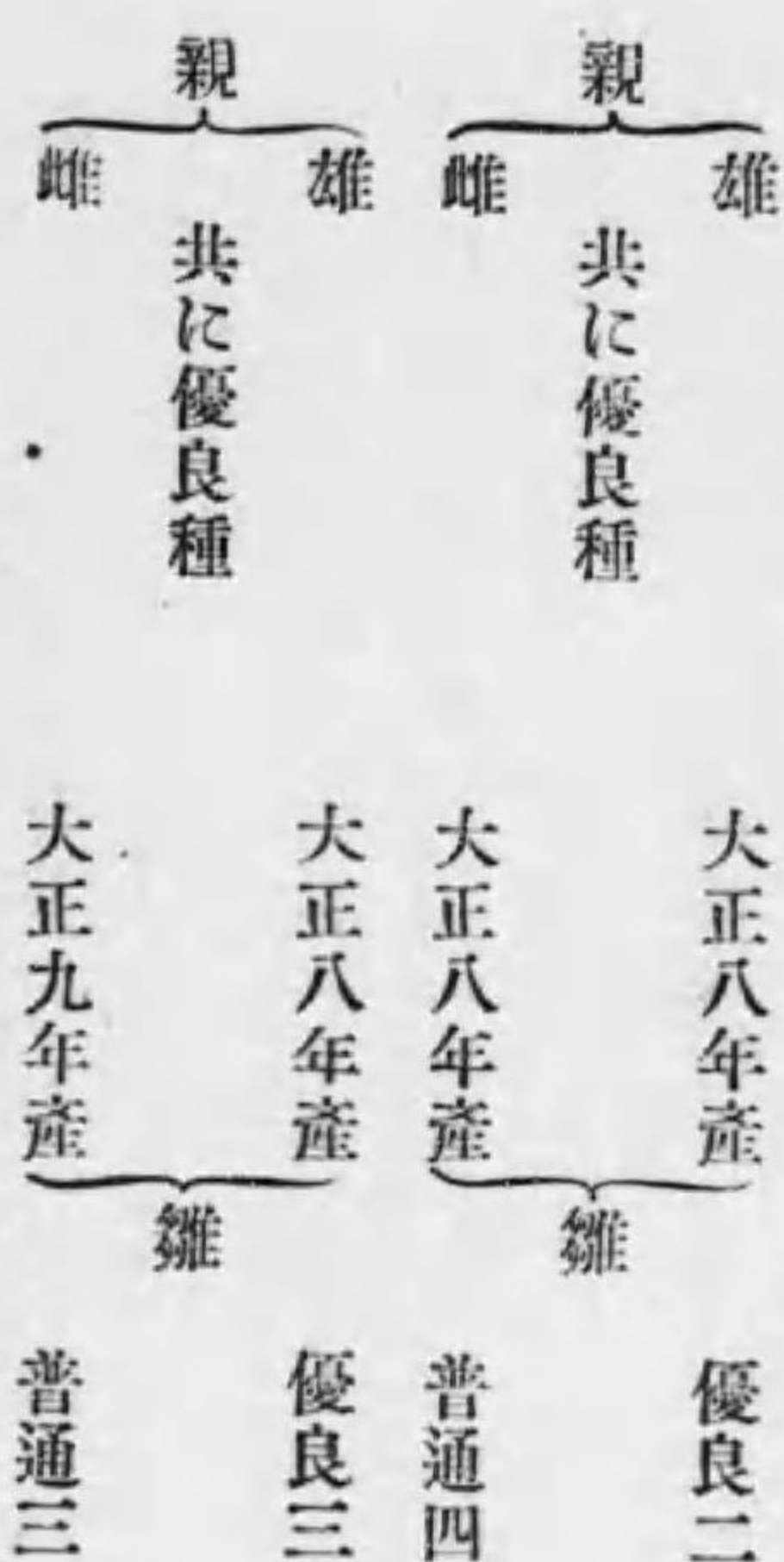


併しながら、雄は概して頭が強くて圓く、雌は扁平である。優良な親鳩は二羽の雛を養育するのは容易である。又二羽を養育すると雛相互に體を接して温めるので、防寒に便で巢放れ遅く、巢皿の外に出るときは二羽互に離れぬから、歸巢に迷はないといふ利益がある。

一番の親鳩が二羽の雛を養育することは、決して過重の負擔ではない。他の小鳥に比すれば寧ろ容易である。自然親鳩に二卵を與へたのは、即ち二羽の雛を同時に育てる能力を有する何よりの證據である。けれども特別の除外例はある、即ち鳩の個體に缺陷がある場合、若しくは何等かの原因で健康を害した場合には、雛の養育は困難である。即ち親鳩が著しく疲勞した状態を發見したならば、其の鳩舎の内にて之に代るべき、育ての親を選定しなければならぬ。此義親を持つて來たからといふて將來仔鳩の性能に悪影響を來す虞は毫もないのである。

### 第七節 親の年齢と仔

鳩通信の成果は其訓練の適否に依ること勿論ではあるが、其根本的價値は主として品種の良否に依て定まるものである。如何に理想的の良い訓練も品種の劣悪なる鳩に對しては何等の效果をも認めることが出來ない。生來の低能兒は如何に教育すればとて到底偉人となり得ないのと同様である。故に此の品種の改良と云ふことについては、飼育者の最も考慮を要し苦心を拂ふべき點である。其方法に關しては大體前に述べた通りであるが、配合すべき雌雄の年齢に就ては、重要な交渉を有すると思はれるから、從來、予が得たる實驗の結果を綜合して左に表示し參考に供しやう。





	雄	親	雌	親	雌
	共に優良種	共に優良種	共に普通種	共に普通種	
大正九年産	優良六	大正八年産	普通〇	大正九年産	優良五
	雌	大正八年産	普通一	大正九年産	優良五
		雌			

以上に依つて見ると左の結論に歸着する。

- 1、同一年次の雌雄の配合は雛の素質を低下す
- 2、同一年次に非ざる雌雄は蕃殖上有利にして、雌の年長なる場合にありては特に然りとす。

そして同じ優良種と謂ふても、勉めて雄は體格に、雌は能力に重きを置いて配合すれば、良い結果を收める様に實驗して居る。

而して雛は一般に一番仔を最良とし、二番仔三番仔之に亞ぎ、四番仔以下は漸次能力の低下を來し發育亦不良である。又五番仔六番仔を蕃殖させる時

は親鳩の能力までも劣退させる傾があるから、實用に供するには三番仔限りで、蕃殖を停止するのが得策である。

上述の様な要領で蕃殖を圖るのであるが、在來種は、我が陸軍が大正八年に佛國から輸入した鳩に比し、遂に能力が劣るのみならず、又輸入系も代を重ねるに随ひ漸次退化して、如何程研究を重ね實驗を積んでも、到底輸入當時の鳩以上に品種を向上することはおぼつかない。如何となれば在來種の遲鈍なるとはいふに及ばず、輸入鳩は佛國人が以前ベルギーから其純血種を本國に輸入し、佛國の堂鳩と配合して其國の風土氣候に適する様に改良したものであるから、夫れを氣候の違ふ而も濕氣の多い吾が國に輸入して、佛國産以上に改良することは望外の望ではないか、退化するのが寧ろ當然の歸結である。

そこで如何にしたならば優良種が得られるかと云ふむつかしい問題になるが、吾人はそこに思ひを致し、何とかして歐米列強の夫れ以上の鳩を蕃殖せねばならぬ。それには現在の鳩を蕃殖して先づ畑を肥すが第一である。蕃殖した鳩は輸入當時の鳩から見れば品種は劣り能力は退化しても、夫れでも從



前の畑から見れば數等肥えて來たことになる。そこで佛國人がその傳書鳩を改造した時の様に、佛國產鳩より一代前即ち其先祖のペルシヤム系の血液を注入して之を更新し、今度こそ日本の風土氣候に適合する鳩を蕃殖させる丁度佛國現在の傳書鳩のその様にすれば良いと信ずるのである。

次に掲ぐるものは從來予の傳書鳩品種改良に對する意見であるが蕃殖を論ずるには極めて必要なものと思ふから、重複する點もあるが茲に引用してこの章の局を結ばう。

## 第八節 傳書鳩品種改良方案

### 一 原種族の維持

品種改良上第一に着眼せねばならぬのは其原種族の維持である。元來白耳義種中主要なものはリエージ系とアントワープ系との二つである。前者は輕快で近距離飛翔に秀で、後者は重厚で遠距離飛翔に優れて居る。

然るに現在我國に分布して居る傳書鳩は、此等白耳義種を歐米各國の堂鳩

に配合した混血種の流れであるから、夫々其國產としての特徴は或は認められるが、白耳義原種としての特徴は殆んど失はれて、輕快なものと重厚なものとの判然區別することは随分困難である。蓋し軍用兵上彼の馬を乗鞍馱馬に區別し、一目瞭然其體形を異にする様に、鳩にありても、亦近距離に使用すべきものと遠距離に使用すべきものとを區別せねばならぬと信ずる。然るに我が傳書鳩の現況としては、既に混血錯雜した結果、之を劃然判明することは頗る困難ではあるが、而も文献上の根據と實驗上の知識とで相鳩眼を涵養したなら、實際に應用して蕃殖上周到な注意を拂へば、如上の分類は必ずしも不可能ではないと信じ、予は此方針に基き努力して居る。

### 二 飛翔能力の向上

飛翔能力の向上に就ては、リエージ系とアントワープ系との各特徴を尊重し、兩種を類別して各性能に適應する様に之を訓練し、其性能上の成績を考查研覈して優良種のみを選択し、寫真的觀察に依りて各優良鳩共通の善點、例へば其體格、龍骨の形狀、翼羽と尾羽との比例、羽の構造、色彩、眼眸等を研究して、歸



納的に優良種たるの條件を定めて、蕃殖上之を助長せねばなるまい。

### 三 方向判定能力の向上

鳩の方向判定機能に就ては、學者間幾多の説はあるが、未だ萬人をして首肯させるに足るものなく、畢竟不明の域を脱しないが、其の能力の優劣は實驗上之を知り得やうではないか。例へば放鳩訓練に方り放つた時常に旋回飛翔すること尠く、迅速に鳩舎方向に姿を没するものは、優秀の證左であらうから、之を記録し綜合して、寫真的觀察即ち眼光の銳鈍、眼瞼の襲の厚薄、頭頸及び鼻瘤の形狀姿勢等に依り、其外貌上の共通善點を發見して一定の歸納規準の下に、劣者を淘汰し優良種を助長したなら本目的を達成し得やう。

### 四 白耳義原種の輸入

以上の方法で優劣を判定して彼此按排し、遺傳學上の原理に則り交配したなら、現状は辛うじて維持し得られやうが、夫でも大正八年の春、我が陸軍が佛國から購入したものに、品種を向上せしめるとは出来るか否かは頗る疑問である。予は今日迄此種鳩のみの蕃殖を實見したが、隨分鳩に關する造詣

深い人の所有でも、其外貌や通信の實績に徴して、中庸鳩の増加は認めだが、未だ品種の向上を認めたとは云ひ難い、否寧ろ劣退の徴候をさへ認むるのである。併し品種の劣退は必ずしも飼鳩者の責任にのみ歸すべきものではない。自然の結果から生ずる各動物通有の徴候として、蓋し止むを得ないのであるからうか、例へば彼の鶏に就て見るも、産卵系に屬する白色レグホンは、近親配合を繼續したなら、其體形は漸次倭小となり又其産卵能力は減退する。

更に、觀賞用としての彼のセキセイインコに就て見ても、其輸入當初は羽毛の色澤鮮麗であるに拘らず、近親配合を繼續すること四五回に及ぶと、其色澤は漸次に褪せ且つ羽毛は疎少となつて、終には觀賞に適さなくなる。斯くの如く近親配合が種族退化に及ぼす影響の顯著なることの實例は、擧げて算へ切れぬ、實に遺傳學上の通則として免れることの出来ないものである。尤も近親配合でも缺點のない者同志なら、害はなく却つて望むところであるが、此様なものは極めて稀にあるのみだから、予は寧ろ排斥するのである。

今傳書鳩に就て視るに、其外貌上では嘴から前額に亘り、概ね一直線である



ものや羽毛の濃厚なものは、一般に優秀の表徴であるに拘らず、此等優良の表徴は逐年消失して、劣悪の徴候に變じつゝある。更に之を具體的に云へば、即ち輸入の當初には、嘴と前額とが概ね一直線狀を呈して居たが、逐年凹屈して「おでこ」の狀を呈するもの多きを加へ、且つ其の羽色に於て淡色のものが漸次増加する傾向を示して居る。又其剛翼に就て視るも、著しく緊縮の度を減じ、弛緩の狀を呈しつゝある様に、何れも劣退の徴候が顯著なのである。

其他通信能力に於ても、近く各地に飛翔競争が行れたが、最初發足した頃は随分澤山の鳩が参加したのだが、逐次失綜して夫々最終點から放鳩する頃は餘り振なかつた。要するに實用の現況は歐米列強に比して遜色がある様である。斯の如き現況で其劣退に委したならば、日進月歩の歐米列強の夫に伍し遜色なからしめやうとするも、所謂木に縁つて魚を求るの感なきを得ない。茲に於てか予は、其の向上方法として白耳義原種族輸入の切要を感ずること痛切なのである。何となれば、前に引例したセキセイインコ及び白色レグホンの退化も、其原種を輸入すること四五回で逐次之を内地産に配合すると

きは、其の種族は内地に適合する様に固定して劣退を見ないやうになる。

佛國や獨米現在の傳書鳩でも、畢竟此の方法の採用に依つて白耳義原種を數次輸入して、逐次其國內地に適する様に固定化したのに外ならぬのである。乃ち我國でも之に倣ひ、先づ現在の傳書鳩を増殖して各地に分布し、其風土氣候に馴致すると共に、一方白耳義系純血優良種を輸入すべく、其の方法としては、兩三年を隔て、毎回若干を輸入すること四五回なることを繰返せば、可なりと信ずる。斯くて輸入したものを内地産に逐次配合して、リエーヅ系やアントワープ系の各長所の保存に努めつゝ、蕃殖せしめたなら、吾が風土氣候に適合する如く固定した日本獨特の種族を得て、歐米列強の夫に比して毫も遜色のないものになると確信するのである。



## 第八章 傳書鳩の疾病及その治療法

本章に於て傳書鳩に多く發する疾病とその治療法とを述べやう。鳩が病氣に罹ると、何分身體が小さくて體內器官が精巧微細に出來てをるだけそれだけ破損も大である。それに形態の小さいのに取扱が極めて困難であるから極く初期に發見して相當の手当を施さなければ、到底恢復の望みはない。故に病氣を未前に防ぐのが一番で、それには食餌工合の善惡、水浴と日光浴との實施、寒暑乾濕の手當、舍内の清潔等に注意することである。斯くして萬一病に罹つたそのときは、次の如き事柄を知つて居て手当を施すのが肝要である。

### 第一節 傳染病

#### 一、「ミユゲ」

**原因** 本病は一種の細菌に因るもので、或ひは觸接傳染を營み或は飲水の媒

介によるものであるが、濕潤の候には空氣傳染をすることもある。本病の誘因となるものは寒冷、刺戟性食餌等で、多く未だ巢立しない雛鳩に見る。恐らく親鳩から病毒を傳播せられるものであらう。孵化後五ヶ月以上の幼鳩には發病率が急に減少し、古鳩には甚だ稀である。

**症候** 病鳩は元氣沈衰、羽色光澤を失し、甚しく瘦削し、腹部が膨大して著しく腺液の滯留を認め、顯著な呼吸困難を現はすものである。其の症候は侵害の部位及臟器により極めて多様である。例へば咽頭に發生したるものは、明かに外部から腫脂を認め、口内を検すれば小豆大の黄白色乾酪様塊の粘膜に膠着して居るものを見る。其の甚だしいのは病塊食道を閉塞し、食物の通過を妨げる様になる。此の病は咽や食道ばかりでなく、内臟殊に肝膜、心房、肺腺にも同様の變狀を來し、病鳩は漸次衰弱して遂に斃死する。

**治療法** 口内を検し、病竈の明に調べ得るものは、鑷子で之れを夾み取り、粘膜面には沃度ワセリンを反覆塗布すれば治療する。但しこの病竈の除去には、稍々熟練を要し、處置が粗暴であれば出血する不結果に終る。又病竈が外部